

山梨県内分布調査報告書

(令和4年4月～令和5年3月)

2024. 3

山梨県観光文化・スポーツ部

山梨県内分布調査報告書

(令和4年4月～令和5年3月)

2024. 3

山梨県観光文化・スポーツ部



No.1 8トレンチ全景



No.1 岩盤検出状況



No.1 池北トレンチ断面



No.1 石材検出状況1



No.1 大沢川踏査状況



No.1 八幡神社裏手 矢穴17

巻頭カラー写真2

No. は事業番号



No.2-笛-1 遺構検出状況



No.2-笛-1 土層堆積状況



No.2-甲-1 土層堆積状況



No.2-甲-3 遺構検出状況



No.2-甲-4 土層堆積状況



No.2-甲-4 出土遺物



No.2-中-1 トレンチ全景



No.2-南-1 トレンチ全景



No.2-富-1 遺構検出状況



No.3 2T遺構確認状況



No.3 3T土層堆積状況



No.4 新1a地点土層堆積状況

巻頭カラー写真4

No. は事業番号



No.4 新1b地点土層堆積状況



No.4 新1c地点遺物出土状況



No.4 新1c地点遺物分布状況



No.4 新1d地点土層堆積状況



No.4 新1e地点遺構半截状況



No.4 新2地点土層堆積状況



No.4 新3地点土層堆積状況



No.4 新4a地点土層堆積状況



No.4 新5地点トレンチ完掘状況



No.14 10T御蔵道断面確認状況



No.14 18T水路跡検出状況



No.15 11T畦畔出土状況

巻頭カラー写真6

No. は事業番号



No.21 噴水南地点土層堆積状況



No.26 遺構検出状況



No.26 遺物出土状況



No.26 土層堆積状況1



No.2-1 出土遺物1



No.26-1 出土遺物2

序 文

本書は、令和4年4月から令和5年3月までの間に、山梨県（実施機関：観光文化・スポーツ部 埋蔵文化財センター）が国庫補助金（文化庁：国宝重要文化財等保存整備費補助金）を受けて実施した「県内遺跡発掘調査等事業」にかかる調査成果をまとめた報告書です。本事業では、12か月間に発掘調査1件、試掘・確認調査15件、立会調査19件の合計35件を実施しています。

試掘・確認調査は、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事、新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設事業等の国・県事業に伴い、施工に先立だった埋蔵文化財保存への影響を確認する目的で実施いたしました。

立会調査では公園整備事業や柵の設置、照明施設の改修等に伴って、専門職員が立ち会いながら、埋蔵文化財への影響が無いことを確認しながら進めました。

試掘・確認調査、立会調査・踏査とともに、遺構や遺物が発見された場合、適切な保存措置が必要となります。開発による遺跡の破壊を未然に防ぐためにも、今後も開発業者との協議を重ねながら、保護・保存に向けた取り組みを続けていく必要があります。

本書に収録した調査記録は、今後の埋蔵文化財の保護、とりわけ開発事業との円滑な調整などにおいて有益な情報になると確信しています。さらに、多くの方々の文化財に対する理解と関係諸機関の文化財保護の取り組みへの一助となれば幸いです。

末筆ではありますが、今後とも当センターの埋蔵文化財・史跡の保存活用にかかる諸事業に一層のご理解とご支援をお願いするとともに、本事業においてご協力を賜りました関係機関並びに調査実施に関わられた皆さまのご支援に厚く御礼申し上げます。

2024年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所 長 北 村 徹

例 言

- 1 本報告書は、山梨県が文化庁の国庫補助（文化庁：国宝重要文化財等保存整備費補助金）を受けて令和4年4月から令和5年3月までに実施した「県内遺跡発掘調査等事業」の調査成果をまとめた報告書である。
- 2 本報告書は、国・県の道路建設事業、建物等建設事業などの開発事業に伴い、山梨県観光文化・スポーツ部埋蔵文化財センターが実施した発掘調査、試掘・確認調査結果、立会調査を収録している。
- 3 調査結果の報告については、野代恵子（副主幹・文化財主事）、正木季洋（主査・文化財主事）、數野優（副主査・文化財主事）、久保田健太郎（副主査・文化財主事）、上野桜（主任・文化財主事）、岩永祐貴（主任・文化財主事）、佐賀桃子（主任・文化財主事）、高野玄明（専門員）、内田祥一（文化財主事）、中村有希（文化財主事）、高左右裕（文化財主事）、小池準一（会計年度任用職員）、佐藤孝志（会計年度任用職員）、深沢鉄朗（会計年度任用職員）、秋山富貴雄（会計年度任用職員）、秋山浩文（会計年度任用職員）が執筆し、編集は正木、高左右が行った。
- 4 本報告書の出土品及び記録図面・記録写真・出土遺物・デジタル化したデータ等は、一括して山梨県立考古博物館において保管している。
- 5 発掘作業員及び整理作業員は次のとおりである（敬称略・順序不同）
発掘作業員 菅沼芳治、藤原真由美、川住たまみ、川住資農夫、遠藤輝昭、田丸進、高木裕治、保坂裕子、今井直子、安本まゆ子、堀川亜矢子、千田厚子、山田貴仁、河西とし江
整理作業員 北野礼子、新津多恵
- 6 発掘調査、試掘・確認調査、立会調査及び整理作業について次の方々にご指導、ご協力いただいた。ここに記して感謝の意を表したい。（順不同）

東海旅客鉄道株式会社（建設工事部）、中日本高速道路株式会社、日本郵便株式会社南関東支社、山梨大学、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所、山梨県警察本部総務室、身延山久遠寺、山梨県土整備部（新環状道路建設事務所、中北建設事務所、流域下水道事務所）、山梨県産業労働部（産業技術センター、富士技術支援センター）、山梨県県民生活部（パスポートセンター）、山梨県観光文化・スポーツ部スポーツ振興課、山梨県総務部、山梨県立笛吹高等学校、甲府市教育委員会、富士吉田市教育委員会、都留市教育委員会、韮崎市教育委員会、南アルプス市教育委員会、北杜市教育委員会、甲斐市教育委員会、笛吹市教育委員会、上野原市教育委員会、中央市教育委員会、市川三郷町教育委員会、身延町教育委員会、富士川町教育委員会

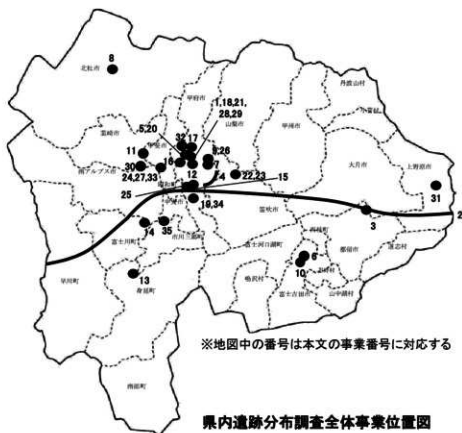
凡 例

- 1 各事業位置図は、国土地理院発行1/25,000のスケールを基本としている。
- 2 図版縮尺については、図版内のスケールによる。
- 3 実測図及び写真は主要なものに限定した。
- 4 遺物実測図の縮尺は下記のとおりである。
土器・陶磁器 1/3

目次

序文 例言 凡例 目次

県内遺跡分布調査全体事業全体位置図	1
I 発掘調査	
1 史跡甲府城跡愛宕山石切場跡の整備事業（史跡甲府城跡愛宕山石切場跡）	2
II 試掘・確認調査	
2 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事業（包蔵地内・外）	8
3 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事都留保守基地建設事業（包蔵地外）	19
4 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設事業（包蔵地内・外）	23
5 甲府警察署甲府駅前交番改築工事（甲府城下町遺跡）	37
6 富士技術支援センターイノベーション支援棟（仮称）建設工事（包蔵地外）	38
7 国道411号和戸アクセス道路建設工事（包蔵地外）	39
8 大泉駐在所建替工事（城上第3遺跡）	41
9 県立青少年センター運動場芝生整備事業（桜井畑遺跡）	42
10 一般国道138号新屋拡幅工事（包蔵地外）	44
11 急傾斜地崩壊対策工事（御座田遺跡）	45
12 一般国道358号遠光寺北交差点改良事業（包蔵地外）	46
13 切石地区築堤護岸工事（包蔵地外）	47
14 道の駅富士川駐車場整備事業（包蔵地外）	48
15 (主) 甲府中央右左口線1号線アクセス道路建設工事（包蔵地外）	51
16 国道52号上石田道路改良事業（包蔵地外）	54
III 立会調査	
17 濁川流域グラウンド貯留施設工事（山梨大学遺跡・武田城下町遺跡）	55
18 舞鶴城公園植栽事業（花壇撤去）（史跡甲府城跡）	56
19 曾根丘陵公園照明設備改修工事（岩清水遺跡）	57
20 甲府警察署甲府駅前交番改築工事（甲府城下町遺跡）	58
21 県庁噴水広場芝生化工事（史跡甲府城跡）	59
22 笛吹高校農場防犯灯改修工事（狐原遺跡）	62
23 笛吹高校農場止水弁バルブ取替工事（狐原遺跡）	63
24 釜無川スポーツ公園改修整備工事（ドッグラン整備）（信玄堤）	64
25 産業技術センター高度技術開発棟他解体工事（包蔵地外）	65
26 県立青少年センター運動場芝生整備事業（桜井畑遺跡）	66
27 釜無川スポーツ公園改修整備工事（遊具改修）（信玄堤）	69
28 舞鶴城公園数寄屋曲輪漆喰塀控え木改修工事（史跡甲府城跡）	70
29 バスポートセンター改修工事（史跡甲府城跡）	71
30 御勅使南公園施設改修工事（御勅使川堤防址群）	72
31 桂川流域下水道桂川2号幹線2条化建設工事（牧野遺跡）	73
32 緑ヶ丘スポーツ公園屋外分煙施設設置工事（緑ヶ丘二丁目遺跡）	74
33 釜無川スポーツ公園屋外トイレ改築工事（信玄堤）	75
34 曾根丘陵公園屋外分煙施設設置工事（上の平遺跡）	76
35 市川大門郵便局建設工事（御陣屋遺跡）	77



※地図中の番号は本文の事業番号に対応する

県内遺跡分布調査全体事業位置図

- 1 史跡甲府城跡愛宕山石切場跡の整備事業（史跡甲府城跡愛宕山石切場跡）
- 2 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事事業（包蔵地内・外）
- 3 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事都留保守基地建設事業（包蔵地外）
- 4 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設事業（包蔵地内・外）
- 5 甲府警察署甲府駅前交番改築工事（甲府城下町遺跡）
- 6 富士技術支援センターイノベーション支援棟（仮称）建設工事（包蔵地外）
- 7 国道411号和戸アクセス道路建設工事（包蔵地外）
- 8 大泉駐在所建替工事（城上第3遺跡）
- 9 県立青少年センター運動場芝生整備事業（桜井畑遺跡）
- 10 一般国道138号新屋拡幅工事（包蔵地外）
- 11 急傾斜地崩壊対策工事（御座田遺跡）
- 12 一般国道358号遠光寺北交差点改良事業（包蔵地外）
- 13 切石地区築堤護岸工事（包蔵地外）
- 14 道の駅富士川駐車場整備事業（包蔵地外）
- 15 (主) 甲府中央右左口線1号線アクセス道路建設工事（包蔵地外）
- 16 国道52号上石田道路改良事業（包蔵地外）
- 17 濁川流域グラウンド貯留施設工事（山梨大学遺跡・武田城下町遺跡）
- 18 舞鶴城公園植栽事業（花壇撤去）（史跡甲府城跡）
- 19 曾根丘陵公園照明設備改修工事（若清水遺跡）
- 20 甲府警察署甲府駅前交番改築工事（甲府城下町遺跡）
- 21 県庁噴水広場芝生化工事（史跡甲府城跡）
- 22 笛吹高校農場防犯灯改修工事（狐原遺跡）
- 23 笛吹高校農場止水弁バルブ取替工事（狐原遺跡）
- 24 釜無川スポーツ公園改修整備工事（ドッグラン整備）（信玄塚）
- 25 産業技術センター高度技術開発棟他解体工事（包蔵地外）
- 26 県立青少年センター運動場芝生整備事業（桜井畑遺跡）
- 27 釜無川スポーツ公園改修整備工事（遊具改修）（信玄塚）
- 28 舞鶴城公園数寄屋曲輪漆喰堀控え木改修工事（史跡甲府城跡）
- 29 パスポートセンター改修工事（史跡甲府城跡）
- 30 御勅使川南公園施設改修工事（御勅使川堤防址群）
- 31 桂川流域下水道桂川2号幹線2条化建設工事（牧野遺跡）
- 32 緑ヶ丘スポーツ公園屋外分煙施設設置工事（緑ヶ丘二丁目遺跡）
- 33 釜無川スポーツ公園屋外トイレ改築工事（信玄塚）
- 34 曾根丘陵公園屋外分煙施設設置工事（上の平遺跡）
- 35 市川大門郵便局建設工事（御陣屋遺跡）

I 発掘調査

1 史跡甲府城跡愛宕山石切場跡の整備事業《史跡甲府城跡愛宕山石切場跡》

	所在地	担当者	調査期間	調査面積
①	甲府市愛宕町 85 番 2、86 番	佐賀桃子・高左右裕	令和 4 年 6 月 13 日～28 日 令和 5 年 2 月 10 日～3 月 10 日	約 325 m ²
②	南巨摩郡身延町 下山 3826 ～ 3828、3829-1、3830 ～ 3832、 3834 ～ 3836	佐賀桃子・高左右裕・ 小池準一	令和 4 年 11 月 24 日～ 12 月 23 日	約 587 m ²
③	甲府市古府中町・塚原町・小松町・ 愛宕町	佐賀桃子・高左右裕	令和 5 年 1 月 16 日～30 日	—

①史跡甲府城跡愛宕山石切場跡

調査の目的

愛宕山石切場跡は、史跡甲府城跡の石垣石材を切り出した場所として、享保年間に描かれた『愛宕町絵図』に記されており、矢穴などの痕跡も見受けられる。本年度は令和 3 年度の調査で確認した溝と大量の安山岩の破片の帰属時期及び土地の利用痕跡を明らかにすることを目的とし、6 月に史跡西側においてトレンチ調査を実施した。また、2 月には史跡内の池の浚渫に伴い清掃発掘調査を実施した。



第 1 図 愛宕山石切場跡位置図 (1/25,000)

調査の状況と成果

トレンチ調査は、地表面下約 60cm で黒褐色粘土層を検出し、さらに掘り下げると、地表面下約 75cm で地山と考えられるにぶい黄褐色シルト層を確認した。この層は令和 3 年度の調査においても検出されており、この層を掘りこんだ土坑 1 基、ビット 1 基、時期不明の溝 1 条を発見した。

この溝は、東西へ約 6.5m で調査区外へと続いており、遺物は確認されなかったため帰属年代は不明だが、令和 3 年度に検出した溝と同方向に延びていることから同一の溝と考えられる。溝の覆土及び周辺には鉄分を含む土が確認でき、水を伴う溝であった可能性がある。近代と考えられる土坑とビットからは、煉瓦片や陶磁器、木材が出土した。

トレンチは、三次元測量による測量後、記録写真撮影を行った。検出した遺構は、土のうで養生し、発生土により埋め戻しを行った。

池部発掘調査では、岩盤までの最大深度は 1.2m 以内と想定しており、池底では安山岩の破片が面的に広がるまで重機により慎重に掘削を開始した。掘削中、想定より土砂の堆積が複雑であることが分かったため、池の北側及び西側に土層堆積状況を確認するためのトレンチを設定し、断面観察を行った。

西側トレンチは、池の際に当たる部分であるため、石積み等の整備がされていることが想定されたが、確認されなかった。堆積土の中には安山岩の破片が確認でき、池内の他の部分と同様の堆積状況が確認された。また、明確な層位は不明だが、木製の椀の破片が出土した。

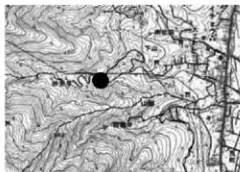
北側トレンチでは、その北に約 3m の切り立つ岩盤があり、岩盤の底部にかかる形でトレンチを設定した。岩盤付近では約 10cm 掘削したところで岩盤（軟岩層）を検出した。切り立つ岩盤から南へ緩やかに傾斜している様子が確認できたが、トレンチの幅が約 50cm と狭小であったため、岩盤の加工痕跡は確認できていない。トレンチの南側において岩盤直上に安山岩の破片が密に堆積している状況が確認できた。この破片集中箇所の上面では、漆器片が確認された。

トレンチによる土層堆積状況の確認後、全体的に高圧洗浄機により清掃し、調査を終了した。

②大沢採石跡

調査の目的

南巨摩郡身延町下山に位置する大沢採石跡は、江戸時代中期頃に行った身延山久遠寺の菩提梯の修復時に使用した採石場跡とする伝承があり、現地には約5mの礫岩に多量の矢穴列が確認できる。愛宕山石切場跡と同時期の石切場の様相を把握するために清掃発掘調査を実施した。



第2図 大沢採石跡位置図 (1/25,000)

調査の状況と成果

大沢採石跡及び隣接する大沢川には、礫岩を中心とした石材が存在し、約5mの礫岩に幅約二寸の矢穴がいくつも列状に並ぶ状況や直径約3cmのルートハンマーの穴が確認できた。また、調査対象範囲内において礫岩の破片で構成される石積み及び石列が複数確認できる。帰属年代は不明だが、地元住民の話から田畑の区画として積み上げた可能性がある。

遺物は確認されず、具体的な時期は不明だが、近世から近代にかけて採石が行われていたと考えられる。

現地は、地元住民有志によって石切場伝承地と紹介する看板が建てられて保護されているものの、埋蔵文化財包蔵地として周知されていない。そのため、今回の調査成果をもとに埋蔵文化財包蔵地として登録する。

③分布調査

調査の目的

甲府城跡関連の石垣石材が採取された石切場跡の推定を試みるため、県内の石切場跡の分布調査を令和3年度から行っている。本年度は史跡甲府城跡周辺の現地踏査及び、帝京大学文化財研究所との共同研究として、史跡甲府城跡や史跡武田氏館跡等の文化財石垣及び岩盤と、踏査箇所ですamplingした安山岩を対象に可搬型蛍光X線分析装置（pXRF）を用いた非破壊による成分分析を実施した。

また、古文書等の文献調査及び石工道具等の民具調査を行い、甲府城に関連する石切場とともに県内の石工や石切場跡に関する情報を収集した。

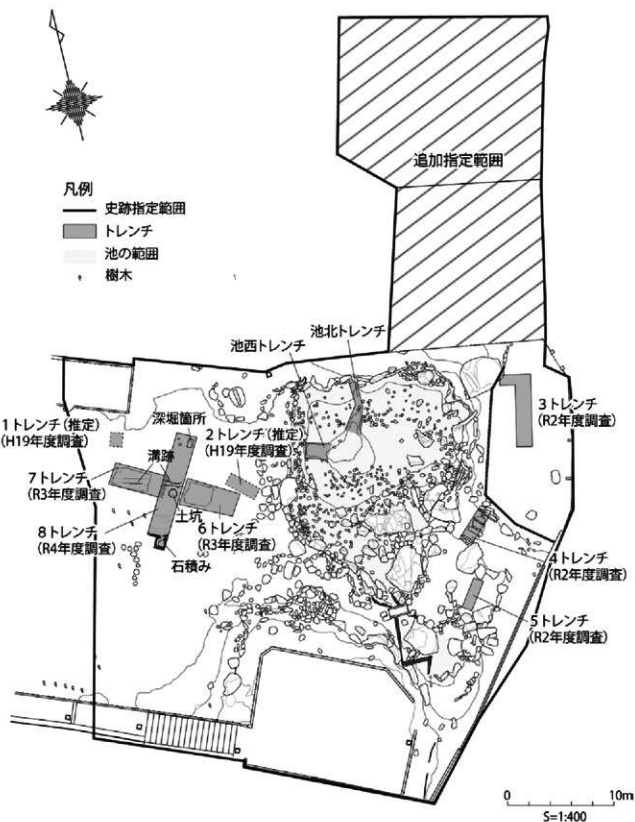
調査の状況と成果

石切場跡の分布調査を実施したところ、甲府市内において、各地で矢穴が残る転石や岩盤を確認したため、近世から近代の石切場跡と考えられる箇所の位置の記録、写真撮影、石材のsamplingを行った。

また、身延町内には大沢採石跡の他にも久遠寺の菩提梯の石切場伝承地があり、身延町教育委員会と久遠寺の協力のもと、梅平地区の現地踏査を行ったが、石切場跡を確認することはできなかった。

文化財石垣の成分分析では、甲府市教育委員会歴史文化財課の協力のもと、史跡武田氏館跡、史跡要害山城跡・熊城跡の石垣及び岩盤のsamplingを行い、共同研究の第1段階として、甲府盆地北部に分布する太良ヶ峠火山岩と水ヶ森火山岩類が化学成分によって分類可能かを検討した。その結果、それぞれの火山岩が分布地域によって異なる化学成分を示すことが確認できた。一方で、太良ヶ峠火山岩と水ヶ森火山岩で類似する化学成分を示す原産地も存在することが明らかになった。

古文書では、令和3年度に複写した『坂田家文書』と『大木家文書』の解説を行った。史跡甲府城跡のこれまでに報告されている信州高遠石工の宿所に関する記述以外、石切場に関する新たな記述は確認されなかった。



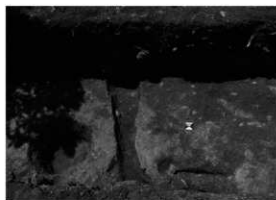
第3図 R4愛宕山石切場跡図面

①史跡甲府城跡愛宕山石切場跡

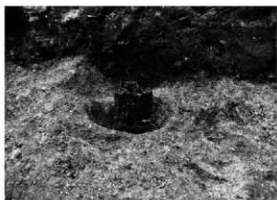
トレンチ調査



8トレンチ遺構検出状況



8トレンチ1号溝検出状況



8トレンチ1号ピット検出状況



8トレンチ全景

池部発掘調査



池北トレンチ断面



池西トレンチ断面

①史跡甲府城跡愛宕山石切場跡



岩盤検出状況



作業風景

①史跡甲府城跡愛宕山石切場跡



現地に残置する石材



石材検出状況1

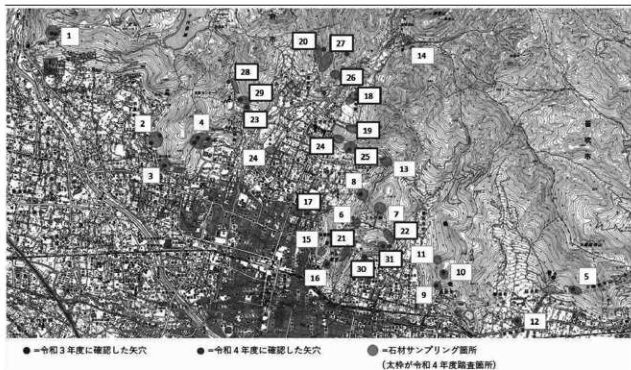


石材検出状況2



大沢川踏査状況

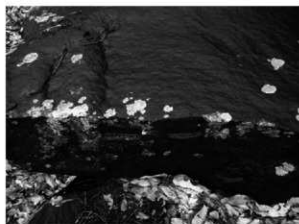
②大沢採石跡



第4図 甲府市内石切場跡分布箇所



甲府市小松町の石切場跡 29



八幡神社裏手矢穴 17

③分布調査

II 試掘・確認調査

2 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事業《包蔵地内・外》

※詳細は各地域の一覧表に示す。

調査担当者 正木季洋・數野優・久保田健太郎・上野桜・御山亮済・高野玄明・内田祥一・小池準一・佐藤孝志

調査の経緯・経過の方法

中央新幹線（品川・名古屋間）は、東京都品川駅付近を起点に、本県甲府市、赤石山脈南部（南アルプス）を経て愛知県名古屋市までの延長約286 kmを超電導磁気浮上方式で走行する計画である。路線延長約286 kmのうち、地上部は約40 km、トンネルは約246 kmである。本県においては、地上部が27.1 kmと地上部全体の約67%を占め、沿線都県自治体のなかでも埋蔵文化財について、特段の注意が必要な区間と言える。

このような背景から、事業主体者である東海旅客鉄道株式会社（以下、「JR東海」と言う。）と協議を進め、平成30年度から本格的に本線部分の試掘調査を開始している。

本事業においては相当な範囲で埋蔵文化財に影響が及ぶ恐れがあることから、円滑な調査と埋蔵文化財保護行政を確実に推進していくために、毎月一回以上の定例会議をJR東海、県リニア未来創造局リニア用地事務所、県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課、埋蔵文化財センターの四者で実施している。協議では用地取得状況、調査の進捗などを相互に確認している。

また、遺跡の調査は、原則用地取得後に行うことが望ましいが、広域に地下情報を把握することは急務であるため、土地所有者の同意書をもって実施することもやむを得ないとした。平成31年度（令和元年度）からはまとまってJR東海が土地を取得した地点を原則として、包蔵地が周囲に無い地点については引き続き単独地点であっても同意書による調査を継続している。

令和4年4月から令和5年3月に本県で試掘調査を実施した地点は、笛吹市1地点、甲府市5地点、中央市1地点、南アルプス市1地点、南巨摩郡富士川町2地点、都留市2地点となる。

試掘調査は人力またはバックホウにより試掘トレンチを掘削し、壁面・床面を人力で精査し遺跡の有無を判断した。

甲府盆地の特質上、盆地北西から流れる釜無川や北東から笛吹川などのいくつもの河川によって形成された扇状地であり、河川運搬による砂礫層が分厚く堆積している事が多く、また堆積状況も地点ごとに複雑である。なお、出水も多いことから、調査は困難を極めている。こうした状況の中、出水地点の調査は、安全基準に基づいた法面を形成し、排水をしながら調査を行っている。

今後も出水地点における調査方法の検討や、試掘調査の安全かつ適切な方法を検討しながら、全地上部で遺漏なく迅速に調査を進めていく計画である。

2-1 本線 笛吹市内

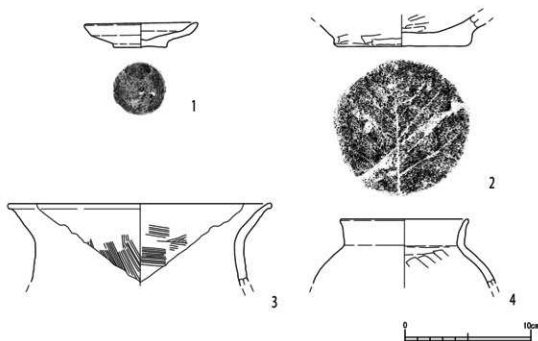
笛吹市における調査地点は、甲府盆地東南部から南部に形成されている曾根丘陵の一部、及び御坂山地・曾根丘陵を起源とする河川が生み出す扇状地を東西に横断している。行政区では、笛吹市境川町の石橋地区にあたる。

令和4年度は笛吹市内において1か所の試掘調査を実施した。当地点は黒褐色土中から古墳時代の遺物や時期不明の遺構が検出されたため、埋蔵文化財の保護措置が必要である。

笛吹市内の建設予定地は遺跡が密集しており、今後も、継続的に未調査地点の試掘・確認調査を積極的に実施し、適切に埋蔵文化財の保護措置に努めていく。

第1表 中央新幹線試掘調査一覧【笛吹市】

No.			調査概要					調査情報				備考		
	調査地点	調査日	包蔵地区分	調査対象面積 (m ²)	試掘調査面積 (m ²)	調査率 (%)	地形	最大深度 (m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度 (m)	時代	出水深度	補足説明
第1	笛吹市 境川町石橋	12月19日～ 12月20日	鹿沙門遺跡	817	37.8	4.6	扇状地	1.4	有	有	GL-0.2 m	古墳	無	黒褐色土中から時期不明の遺構を確認。古墳時代後期と思われる栗の口縁部や底部が出土。



第1図 出土遺物実測図

第2表 出土遺物観察表

番号	種別	器形	寸法 (cm)			調整技法			色調	胎土	焼成	残存率 (%)	時期	備考
			口径	器高	底径	内面	外面	底面						
1	土師器	かわらけ	8.8	1.9	4.2	口クロナデ		回転糸ギリ	内外: 10YR4/2 灰黄褐色	赤色粒子、糞母、黒色粒子	良	90	中世前半	
2	土師器	甕	—	(2.5)	10.5	ナデ	横位ヘラナデ	木葉底	内: 5YR8/4 にふい赤褐色 外: 2.5YR5/3 にふい赤褐色	赤色粒子、白色砂粒	良	5	平安	
3	土師器	甕	(20.8)	(6.5)	—	横位ハケ目	縦位ハケ目		内: 10YR6/4 にふい黄褐色 外: 7.5YR6/4 にふい褐色	白黒砂粒	良	5	古墳後期	
4	土師器	甕	(10)	(5.5)	—	胴部ヘラナデ 頸部～口唇部ヨコナデ			内: 5YR4/1 褐灰色 外: 7.5YR6/4 にふい褐色	赤色粒子、白黒砂粒	良	5	古墳後期	外面摩耗

2-2 本線 甲府市内

甲府市内における調査地点は、笛吹川左岸の氾濫原から曾根丘陵先端部にあたる旧東八代郡中道町（甲府市上曾根町、白井町）、及び笛吹川右岸、荒川兩岸の甲府市小曲町、西下条町、大津町、高室町にまたがる地域である。令和4年度は、5地点の試掘調査を実施している。このうち上曾根町内が1地点、西下条町内2地点、大津町内2地点である。

上曾根町は勝山城跡付近を調査したが遺構・遺物ともに検出しなかった。西下条町では鎌田川に近い甲-3で近世の水田面や中世の土坑などを検出した。大津町は入田遺跡の包蔵地内を掘削し、中世の土器片が多量に出土、大津天神堂遺跡の包蔵地内でも中世の溝状遺構や畝状遺構及び中世の土器片が確認された。

以上のように、甲府市西下条町、大津町については、従来、埋蔵文化財が希薄な地域とされているが、試掘調査の結果、西下条町、大津町町内において本調査の対象となる地点が確認された。

今後も、継続的に未調査地点の試掘・確認調査を積極的に実施していくが大津町周辺部において中央新幹線本線部分以外にも、広大な駅等の付属施設の建設も予定されていることから、適切に埋蔵文化財の保護措置に努めていく。

第2表 中央新幹線試掘調査一覧【甲府市】

No.	調査地点	調査日	調査概要			調査情報					備考			
			包蔵地区区分	調査対象面積 (㎡)	試掘調査面積 (㎡)	調査率 (%)	地形	最大深度 (m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度 (m)	時代	出水深度	補足説明
甲-1	甲府市上曾根町	9月12日～9月16日	包蔵地外	5,210	98.4	1.9	氾濫原山地	2.3	無	無	—	—	有 GL-1.5m	調査地点の東側には勝山城跡が存在するが、特に関連する遺構・遺物はなかった。
甲-2	甲府市西下条町	3月6日～3月9日	包蔵地外	3,180	104.9	3.3	氾濫原	2.2	無	無	—	—	有 GL-2.0m	荒川の河川沿いであり、GL-1.5mまで氾濫による堆積層がみられた。下のシルト層にも遺構・遺物は確認できなかった。
甲-3	甲府市西下条町	4月26日～4月28日	大津村添遺跡	1,070	40.5	3.8	氾濫原	2.1	有	有	GL-1.1m	中世	有 GL-1.1m	調査地点西側において、耕作土の下に近世の水田面、さらに下に中世の遺構・遺物を包含するシルト層を確認した。
甲-4	甲府市大津町	4月25日	入田遺跡	1,220	12.24	1.0	氾濫原	1.0	無	有	—	中世	無	耕作土の下に近世の水田面があり、さらに下の褐色粘質土中から中世の土器片が多量に出土した。
甲-5	甲府市大津町	2月28日～3月2日	大津天神堂遺跡	4,000	61.8	1.5	氾濫原	2.2	有	有	GL-0.9m	時期不明	無	調査地点の西側では、粘質土層が検出され、それを確認面として溝や畝などを検出した。

2-3 本線 中央市内

中央市北部の旧玉徳町と旧田富町は、甲府盆地の低地に位置しており、この盆地底部区間を中央新幹線が東西に横断する予定である。釜無川の扇状地扇端部に位置し、度重なる河川の氾濫により自然堤防や旧河道からなる氾濫平野といった微地形が形成されている。湧水地点も高く、河川氾濫による砂層やシルト層、礫層による堆積が見られる。令和4年度では極楽寺地内1地点を実施した。

極楽寺地内の調査において、本年度試掘調査した地点の隣接地では令和3年度の試掘調査で中世の畑跡などが見つかっており、遺跡の広がりが想定されたが、本年度の調査地点は河川堆積であり、遺構や遺物は検出されなかった。

中央市域内は河川の氾濫による堆積で土地が形成されているため、出水が激しく、遺構確認が非常に困難な土地である。しかし、大津天神堂遺跡など、近年、このような土地でも遺跡が確認されてきているため、継続して試掘・確認調査を実施して、埋蔵文化財の有無について把握していく必要がある。

第3表 中央新幹線試掘調査一覧【中央市】

No.	調査地		調査概要					調査情報				備考		
	調査地点	調査日	包蔵地区区分	調査対象面積 (m ²)	試掘調査面積 (m ²)	調査率 (%)	地形	最大深度 (m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度 (m)	時代	出水深度	補足説明
中-1	中央市 榑東寺	1月19日～ 1月26日	包蔵地外	17,130	108	0.6	氾濫原	2.0	無	無	—	—	有 GL-0.9m	西側隣接地では中世の堀跡や土坑が検出しているが、当地点は河川の氾濫による堆積であった。

2-4 本線 南アルプス市内

中央新幹線は、南アルプス市の東南部、旧若草町及び旧甲西町を横断する。市内を流れる滝沢川及び坪川は、巨摩山地水源とし複数の扇状地を造り出し、これらが重なり合うことで複合扇状地を形成している。また、旧若草町藤田地区は釜無川の右岸にあたり、幾重の洪水によって氾濫原が形成されている。この周辺地域は、従来より遺跡が希薄な地域とされている地域である。

令和4年度の試掘調査では田島地区内1地点において試掘調査を実施した。調査地点は狐川に近く、河川氾濫と思われる砂が厚く堆積しているのみであった。湧水も激しかった。

今後も継続して試掘・確認調査を実施して、埋蔵文化財の有無について把握していく。

第4表 中央新幹線試掘調査一覧【南アルプス市】

No.	調査地		調査概要					調査情報				備考		
	調査地点	調査日	包蔵地区区分	調査対象面積 (m ²)	試掘調査面積 (m ²)	調査率 (%)	地形	最大深度 (m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度 (m)	時代	出水深度	補足説明
南-1	南アルプス市 田島	7月19日～ 7月22日	富田城跡	2,080	67.8	3.3	氾濫原	1.8	無	無	—	—	有 GL-0.9m	耕作土直下は河川堆積になり、GL-1m前後で湧水が強い。

2-5 本線 南巨摩郡富士川町内

中央新幹線は富士川町内の小林、天神中條、最勝寺地区を縦断する。小林、天神中條地区は、戸川や利根川によって形成された複合扇状地にあり、本線予定地はその扇状部にかかる。令和4年度では天神中條地区内1地点、最勝寺地区内1地点の計2地点の試掘調査を実施した。

天神中條地区内では、利根川の沿岸部を調査したところ、堤防址の可能性のある石積みを検出した。最勝寺地区内は、耕作土直下に礫層があるのみで遺構・遺物は確認されなかった。

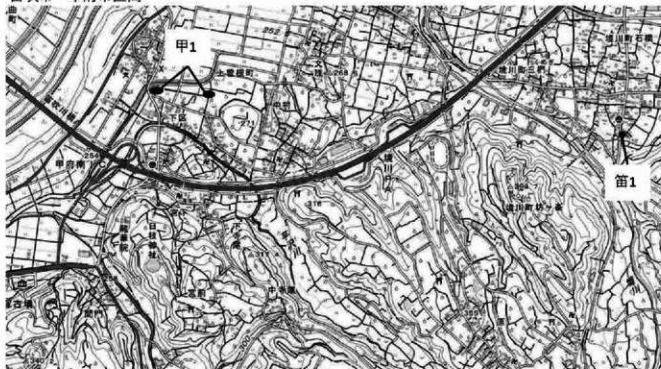
富士川町は中央新幹線の沿線上で比較的遺跡の分布が少ないが、試掘調査を必要箇所も数多く存在しており、今後も継続して試掘・確認調査を実施して、埋蔵文化財の有無について早急に把握していく必要がある。

第5表 中央新幹線試掘調査一覧【南巨摩郡富士川町】

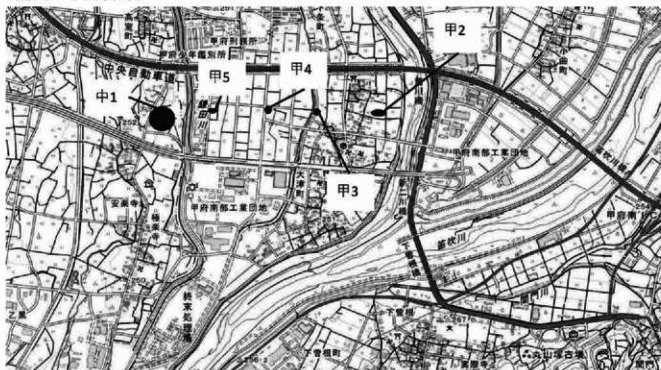
No.	調査地		調査概要					調査情報				備考		
	調査地点	調査日	包蔵地区区分	調査対象面積 (m ²)	試掘調査面積 (m ²)	調査率 (%)	地形	最大深度 (m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度 (m)	時代	出水深度	補足説明
富-1	富士川町 天神中条	5月17日～ 5月18日	利根川堤防跡	1,180	20	1.7	氾濫原扇状地	1.4	有	無	GL-0.4m	時期不明	無	堤体の可能性がある土層や石積みを検出したが、トレンチが狭小なため、引き続き調査を計画する必要がある。
富-2	富士川町 最勝寺	2月14日～ 2月17日	包蔵地外	2,010	45.3	2.3	扇状地	1.8	無	無	—	—	無	耕作土下でシルト層が見られたが、層が薄く、すぐに約15cmの礫層になる。

第2図 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事試験地点位置図

笛吹市～甲府市区間

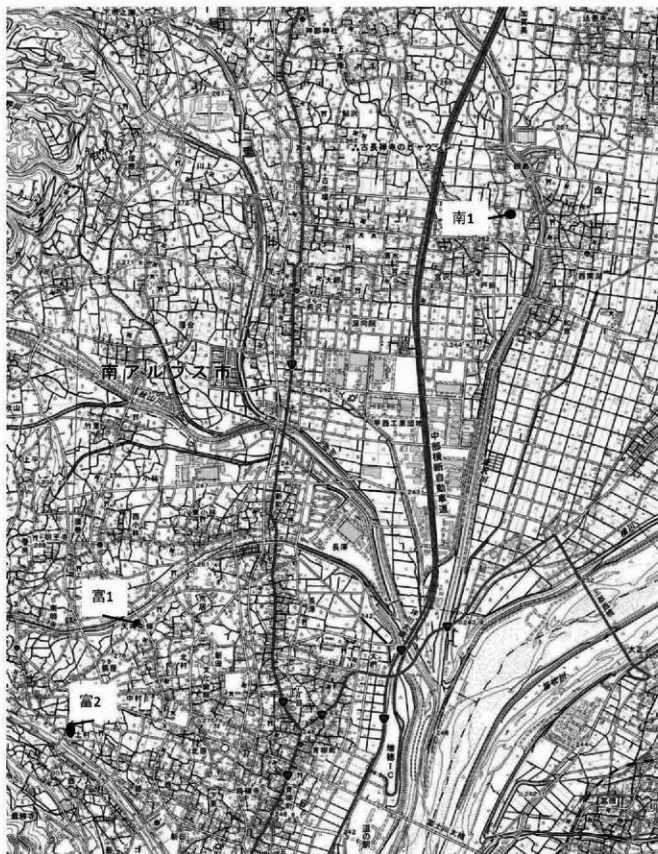


甲府市～中央市区間



第2図 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事試掘地点位置図

南アルプス市～富士川町区間



笛吹市（笛-1）



遺構検出状況



遺構検出状況



トレンチ全景



土層堆積状況

甲府市（甲-1）



掘削状況

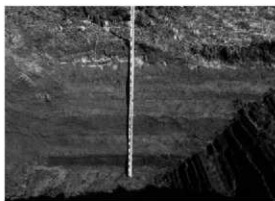


土層堆積状況

甲府市（甲-2）



掘削状況



土層堆積状況

甲府市（甲-3）



掘削状況



遺構検出状況



遺構検出状況

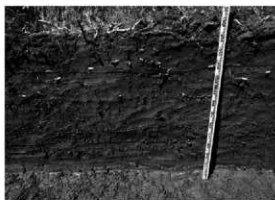


遺構養生状況

甲府市（甲-4）



掘削状況



土層堆積状況



出土遺物

甲府市（甲-5）



掘削状況



土層堆積状況



遺構検出状況



礎石検出状況

中央市（中-1）



掘削状況



トレンチ全景

南アルプス市（南-1）



掘削状況



トレンチ全景

富士川町（富-1）



掘削状況



遺構検出状況



土層堆積状況



遺構検出状況

富士川町（富-2）



掘削状況



土層堆積状況

3 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事都留保守基地建設事業《包蔵地外》

所在地	都留市小形山字瀬木 2270、2271、2275-1、2277 番地	調査期間	第1次 令和4年9月26日～30日 第2次 令和5年2月6日～8日
担当者	正木季洋、上野桜、高野玄明、秋山富喜雄	調査面積	約 163.5 m ² （調査対象面積約 5,010 m ² ）

調査の目的

中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴い、本県では平成30年度から東海旅客鉄道株式会社、文化振興・文化財課、埋蔵文化財センターの三者で協議を行い、実験線以西における本格的な試掘調査を実施している。

当該地点は中央新幹線の保守基地が建設される予定地であり、先行して試掘調査を行っている。

調査の状況と結果

調査地点は桂川左岸の山裾部に位置し、周辺部には、縄文時代中期、晩期の中谷遺跡、中溝遺跡、奈良～平安時代の堀之内原遺跡が存在する。令和3年6月と11月に調査区南西側において、同事業に伴う試掘調査を実施し、縄文時代の遺物や遺構、中世の遺構等が確認された。



第1図 調査地点位置図（1/25,000）

【第1次試掘調査】

0.25mクラスの重機により、幅1.5～2.3m、長さ4.5～8.7m、深さ1.0～3.3mの10本のトレンチを調査した。緩斜面の山裾部分に設定した1～4号トレンチでは、まず表土である暗褐色や褐色の粘質土が0.45～0.9m程厚く堆積していた。そして、1号トレンチと3号トレンチでは地表下0.95～1.15m程で暗褐色土や黒色土を掘り込む遺構が確認され、2号トレンチと4号トレンチでは、地表下約2mの黒褐色土中から縄文時代中期の遺構や遺物が確認された。

5～8号トレンチは、1～4号トレンチの西側の山側の傾斜が激しい部分に設定した。5号・6号・8号トレンチでは、斜面に伴う土砂崩落等による2次堆積の様相が窺え、遺構や遺物の確認はできなかった。しかし、7号トレンチからは、地表下1.5m程度で、暗褐色土層中に縄文時代の遺物を伴う遺構を確認した。

9号トレンチ・10号トレンチは、山裾部の平坦面に設定し、9号トレンチにおいて地表下0.3m程で時期不明の褐色土を掘り込む遺構が検出した。

【第2次試掘調査】

0.15mクラスの重機により7本のトレンチを調査した。

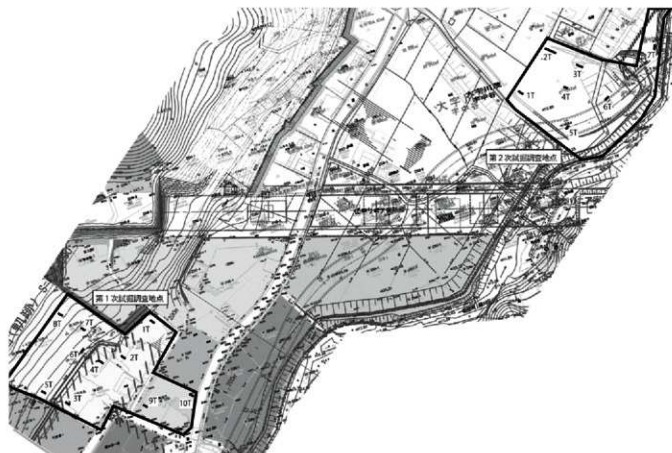
1・6・7号トレンチは、耕作土層及び造成土層下に河川堆積による砂礫層が堆積し、遺構・遺物は確認されなかった。2号トレンチでは、耕作土層下より掘り込まれる土坑1基と溝状遺構が確認されたが、遺物の出土はみられず、帰属時期は不明である。

4号トレンチでは、耕作土層及び造成土層下に黒褐色粘質土層（4～7層）が南方向に緩やかに下がる傾斜をもって堆積し、その下部、地表下に1.65mより確認された暗褐色砂質土層（8層）は急激な傾斜を持って堆積している状況であった。3号トレンチは4号トレンチと同様の地層が認められたが、上部の造成土層が厚く堆積し、8層を確認することができなかった。

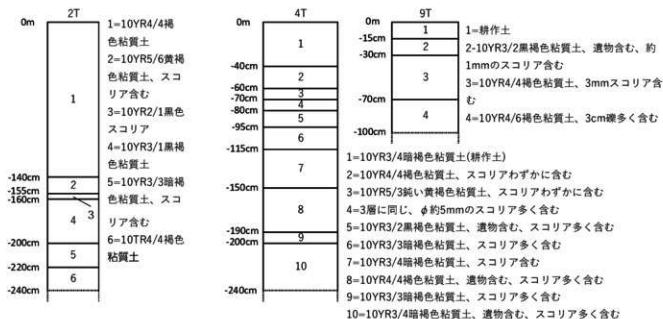
調査初見

調査の結果、中世、縄文時代の遺構や遺物が確認された。特に第1次試掘調査の時に4号トレンチでは縄文時代の遺物が3層に渡り確認できた。第2次試掘調査でも2号トレンチで土坑が確認されたことから、北まで包蔵

地が広がっていることがわかった。昨年度の試掘結果と今回の試掘結果を踏まえ、調査区周辺部は本発掘調査の対応が必要となり、調査対象も中世、縄文時代（中期を中心に後期、前期末）と多岐にわたるため、調査期間等、事業者との協議を十分に行う必要がある。



第2図 トレンチ配置図



第3図 第1次試掘調査地点土層堆積状況



1T遺構確認状況



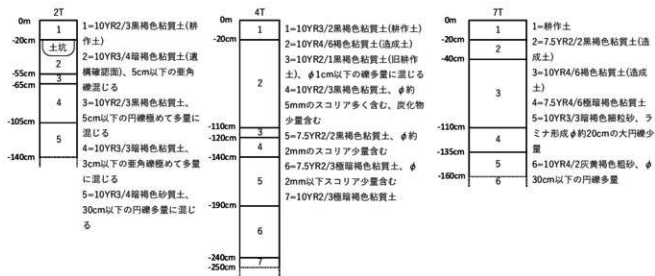
3T土層堆積状況



4T遺構確認状況



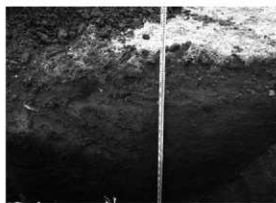
7T遺構確認状況



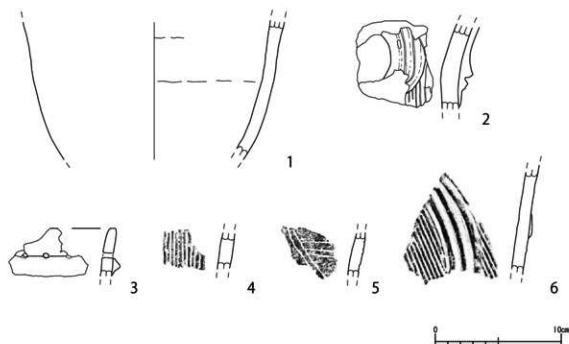
第4図 第2次試掘調査地点土層堆積状況



2T遺構確認状況



5T土層堆積状況



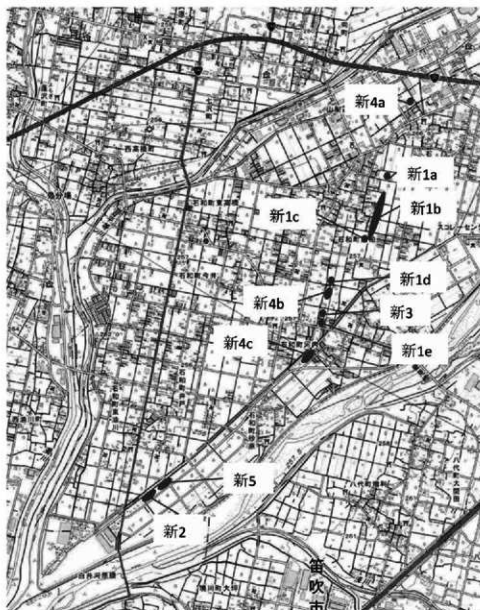
第5図 出土遺物実測図

第1表 出土遺物観察表

番号	種別	器形	寸法(cm)			調整技法			色調	胎土	焼成	残存率(%)	時期	備考
			口径	器高	底径	内面	外面	底面						
1	縄文土器	深鉢土器	—	(11.0)	—				7.5YR5/3 にふい褐色	赤色粒子、白・黒色小石、雲母	良	5	縄文	輪積痕
2	縄文土器	深鉢土器	—	(6.5)	—			重弧文 集合条線	内：10YR5/3 にふい黄褐色 外：5YR4/2 灰褐色	赤白黒砂粒	良	2	縄文中(管利式)	
3	縄文土器	有効胴付土器	—	(3.8)	—				7.5YR4/6 褐色	赤白黒粒子、雲母	良	1	縄文中(膝版式)	
4	縄文土器	深鉢土器	—	(2.9)	—			集合条線	内：10YR1/2 黒色 外：5YR4/3 にふい赤褐色	赤色粒子、白色砂粒、雲母	良	1	縄文中期	
5	縄文土器	深鉢土器	—	(3.5)	—			半截竹管文	5YR5/4 にふい赤褐色	赤色粒子、白黒砂粒	良	1	前期前葉	
6	縄文土器	深鉢土器	—	(8.7)	—			重弧文 集合条線	内：7.5YR4/3 褐色 外：7.5YR3/1 黒褐色	赤色粒子、白色小石、雲母	良	2	縄文中(管利式)	

4 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設事業《包蔵地内・外》

番号	所在地	担当者	調査期間	調査面積
新1	笛吹市石和町広瀬・唐柏・小石和地内	正木季洋・數野優・内田祥一・深澤鉄朗	令和4年6月3日～20日	約335㎡
新2	甲府市白井町地内・笛吹市石和町井戸地内	正木季洋・高野玄明・内田祥一	令和4年8月1日～12日	約775㎡
新3	笛吹市石和町小石和地内	正木季洋・内田祥一	令和4年8月24日～31日	約172㎡
新4	笛吹市石和町河内・広瀬・小石和地内	高野玄明・秋山富貴雄	令和4年11月8日～11日、14日、15日、17日	約158㎡
新5	笛吹市石和町井戸地内	岩永祐貴・秋山浩文	令和4年11月21日～12月2日	約380㎡



第1図 調査地点位置図

調査の目的

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期工事は、甲府市落合町から笛吹市石和町広瀬に至る総延長5.5kmに及ぶ道路の整備事業である。Ⅰ期工事とされる甲府市西下条町から小曲町付近の区間について平成25年度に事業化されている。Ⅱ期工事について、事業用地が広大であることから、文化振興・文化財課、新環状道路建設事務所と定期的に協議を行い、用地取得が済んだ事業予定地について順次、試掘・確認調査を実施している。埋蔵文化財センターでは、平成29年度より当事業において試掘・確認調査を実施している。令和元年度より北畑南遺跡をはじめとして、工事区間沿いで次々と遺跡が確認されている。

今回の調査は、第1図で示した5箇所を試掘調査した。

調査の状況と成果

今回の試掘調査地域は、笛吹川西側の氾濫原に位置し、ほぼ平坦な地形である。微地形は、河川氾濫が形成する自然堤防と旧河道により構成され、笛吹川によるシルト層や砂層の堆積と、当地域を西南に流れる数条の小河川の浸食や粗粒土壌の堆積が繰り返されて形成されたものである。当地域では、自然堤防が形成する微高地を中心に現在の集落が展開する。

新1地点

小石和から広瀬までの区間を16本のトレンチを設定し、土層堆積状況を調査したところ、基本的に耕作土下に河川堆積と考えられる砂層や礫層が厚く堆積しており、いくつかのトレンチからは河川堆積層中より土器片がわずかに出土したが、摩耗していることから河川の堆積によって運ばれてきたものであると思われる。一方、新1c地点（唐柏地区）では砂層下のシルト層から中世の遺物が多量に出土した。また、新1e地点（広瀬地区）では中世の遺物を含む細粒砂層やその直下の中粒砂層では土坑が検出された。

新2地点

当該地は4本のトレンチを設定し調査したところ、耕作土直下は近現代の攪乱を受け、以下は河川堆積による砂層が地表下約3m以上まで堆積しているのみであり、いずれのトレンチからも、遺構・遺物は確認されなかった。

新3地点

調査地点の南側と北側で土層堆積や遺構などの出土状況が変化していた。南側では中世後期の土器片が出土する灰色砂の包含層が堆積し、さらにその直下にはφ50cmの土坑が検出された。

さらにその直下の層は平安時代末期の遺物包含層であり、やや摩耗した土器片が出土した。

調査地点中央は遺構および遺物は見られなかった。

北側においては16・17層で炭化物を多く含む中世後期の遺物包含層が確認でき、17層からは完形に近い土器器皿を含む土器集中遺構が検出された。また19層においても柱状高台が出土している。

新4地点

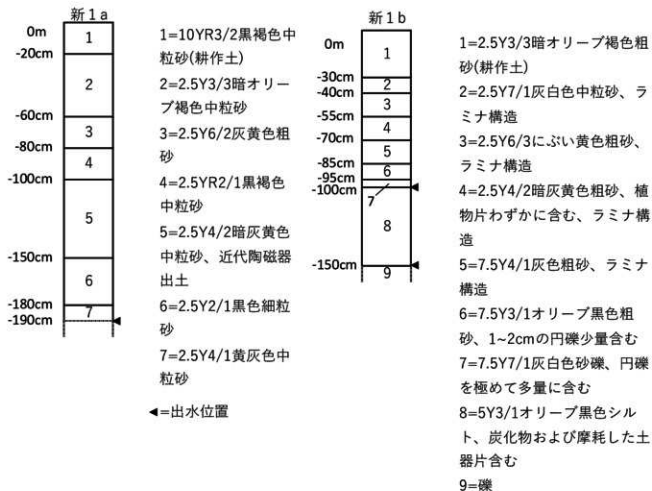
石和町の河内地内、小石和地内、広瀬地内において試掘調査を行った。各地点とも最大GL-0.75mまで耕作土や造成土が堆積し、その直下は砂層が厚く堆積していた。さらに下には黒色粘性土が堆積しており、遺構及び遺物を確認してみたが確認されなかった。

新5地点

当該地を調査したところ、基本的に同じ層序であった。表土や埋め土の直下は、砂層もしくはシルト層が厚く堆積するのみであり、遺構及び遺物は確認されなかった。

調査初見

以上により、新1地点の唐柏地区及び広瀬地区については埋蔵文化財の保護措置が必要と判断した。新3地点においては、南側は本調査が必要であり、中央について、保護措置は不要であると考え、北側においては、今後の追加調査の結果と合わせて判断することとした。一方、その他の地点は調査を不要とした。



第2図 新1a・新1b地点土層堆積状況



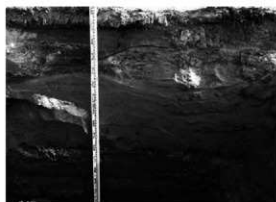
新1a地点トレンチ完掘状況



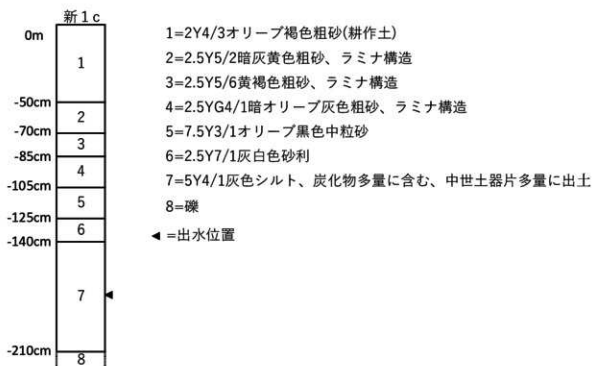
新1a地点土層堆積状況



新1bトレンチ完掘状況



新1b土層堆積状況



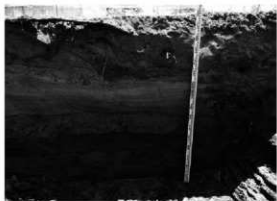
第3図 新1c地点土層堆積状況



新1c地点トレンチ完掘状況



新1c地点トレンチ完掘状況



新1c地点土層堆積狀況



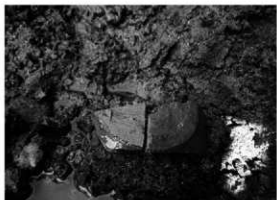
新1c地点土層堆積狀況



新1c地点遺物出土狀況



新1c地点遺物出土狀況



新1c地点遺物出土狀況



新1c地点木製遺物出土狀況



新1c地点出土遺物分布状況



新1c地点出土遺物分布状況

新1d		
0m	1	1=2Y4/3オリーブ褐色粗砂(耕作土)
-20cm	2	2=5Y7/1灰白色砂礫、ラミナ形成
	3	3=5Y4/2灰オリーブ色粗砂、ラミナ形成
-60cm	4	4=7.5Y3/1オリーブ黒色中粒砂
	5	5=2.5Y3/1黒褐色中粒砂、φ約1cmの礫混じる
-90cm	6	6=7.5Y4/1灰色細粒砂、土器片出土
-110cm	7	7=10Y3/1オリーブ黒色中粒砂、φ3cm以下の亜円礫を少量混じる、近代磁器・土器片出土
-130cm	8	8=7.5Y4/1灰色粗砂
-145cm	9	9=5Y4/2灰オリーブ色中粒砂、摩耗土器片出土
-165cm	10	10=5Y4/3暗オリーブ色粗砂
-190cm	11	11=5Y4/1灰色礫層
-210cm		◀ =出水位置
-240cm		

第4図 新1d地点土層堆積状況



新1d地点トレンチ完掘状況



新1d地点土層堆積状況



新1e地点トレンチ完掘状況

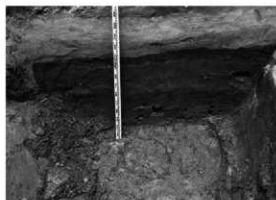


新1e地点土層堆積状況

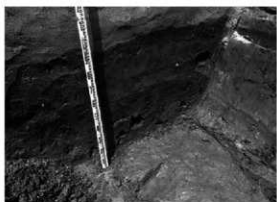
第5図 新1e地点土層堆積状況



新1e地点遺物出土状況



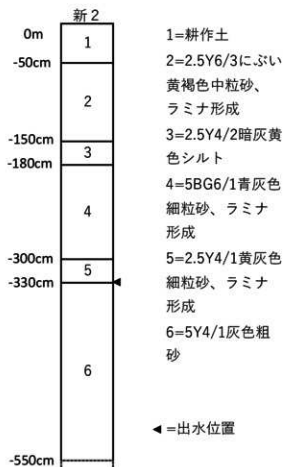
新1e地点遺構検出状況



新1e地点遺構半載状況



新1e地点遺構養生状況

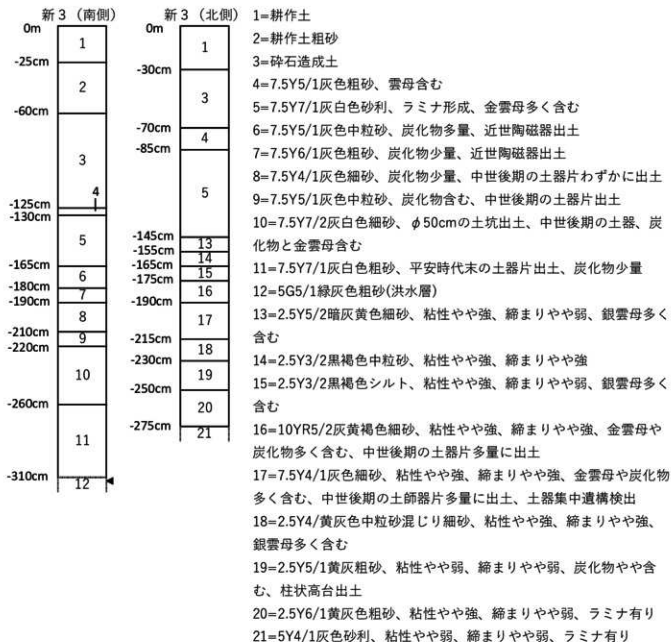


新2地点トレンチ完掘状況



新2地点土層堆積状況

第6図 新2地点土層堆積状況

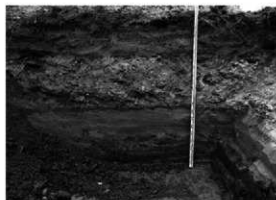


◀=出水位置

第7図 新3地点土層堆積状況



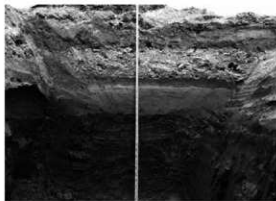
新3地点トレンチ完掘状況



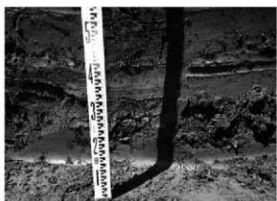
新3地点土層堆積状況



新3地点トレンチ完掘状況



新3地点土層堆積状況



新3地点遺物出土状況



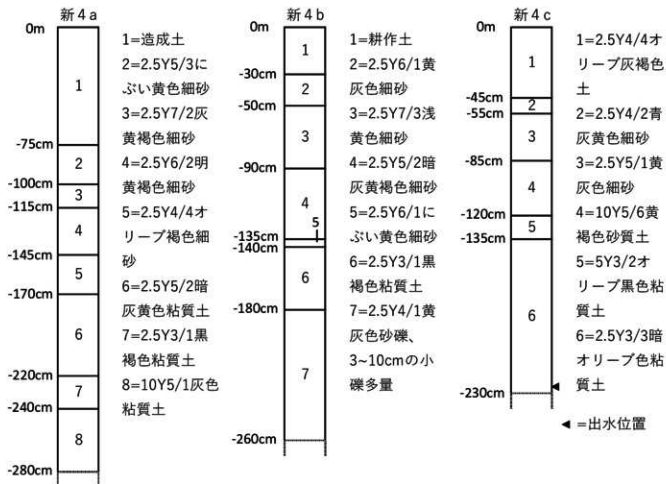
新3地点遺物出土状況



新3地点土器集中遺構検出状況



新3地点土器集中遺構養生状況



第 8 図 新 4 地点土層堆積状況



新4a地点トレンチ完掘状況



新4a地点土層堆積状況



新4b 地点トレンチ完掘状況



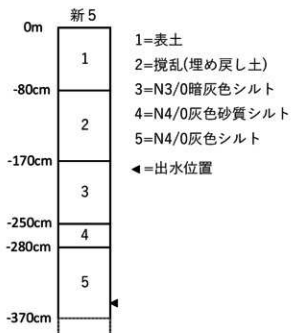
新4b 地点土層堆積状況



新4c 地点掘削状況



新4c 地点土層堆積状況



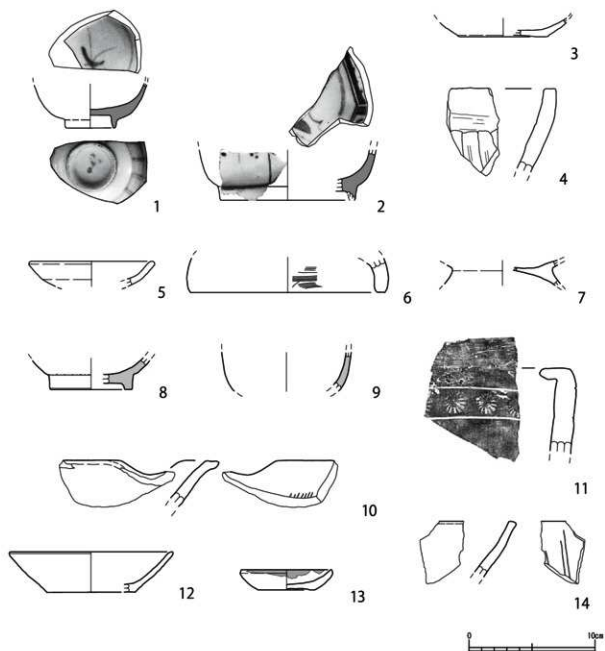
第9図 新5 地点土層堆積状況



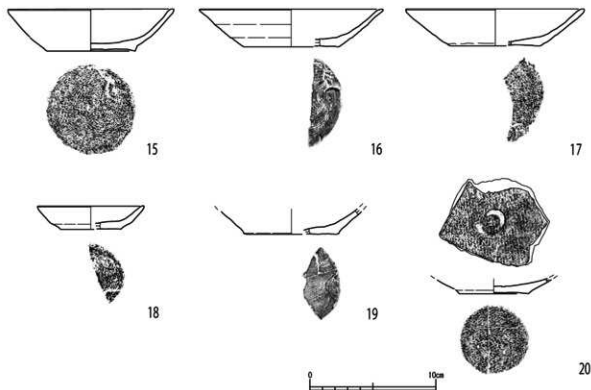
新5地点トレンチ完掘状況



新5地点土層堆積状況



第10図 出土遺物実測図1



第11図 出土遺物実測図2

第1表 出土遺物観察表

番号	種別	器形	寸法 (cm)			調整技法		色調	胎土	焼成率 (%)	時期	備考	
			口径	器高	底径	内面	外面						底面
1	磁器	碗	(3.5)	3.8		草虫文 一重圏繪	高台に文字あり (判読不能)	5Y8/1 灰白色		良 10	近世末 ~近代		
2	磁器	鉢	(4.0)			草虫文	高台あり	5Y8/1 灰白色		良 10	近世末 ~近代	染付 痕跡あり	
3	土師器	かわらけ	(1.6)	(7.2)		ロクロナデ	回転系ナリ	7/4 にふい橙	赤色粒子、赤白砂粒	良 10	中世		
4	瓦器	香炉?	(7.0)			ロクロナデ 口唇部横位 ヘラナデ 口唇部横位 ヘラナデ	口縁部横位 ヘラナデ 胴部横位 ヘラナデ	2.5Y1/7 灰白色	白黒砂粒	良 5	中世		
5	土師器	かわらけ	(8.5)	(2.0)		ロクロナデ	ロクロナデ	10YR8/2 灰青褐色 内: 2.5Y3/1 黒褐色 外: 7.5YR5/6 黒褐色	赤色粒子、赤白砂粒 赤色粒子、赤白色粒子、 雲母	良 5	中世		
6	石器	黒色土器	(2.7)	(15.2)		ヨコナデ				良 2	近世		
7	土師器	高台付坏	(2.0)					5YR6/4 にふい橙褐色	赤・黒色粒子、白黒小石、 雲母	良 5	平安~ 中世		
8	陶器	碗	(2.5)	(6.4)		施軸	施軸	付け高台 底部無軸	2.5Y8/2 灰白色	白色砂粒	良 10	近世	
9	陶器	碗	(3.1)					10YR7/2 にふい黄色	白色砂粒	良 10	近世		
10	土師器	すり鉢	(3.7)			かき目 ロクロナデ	ロクロナデ 注ぎ口あり 二条線の区 画に菊花紋	10YR7/4 にふい黄褐色	赤色粒子、白黒小石、 雲母	良 10	中世~ 近世		
11	瓦器	火鉢?	(14.7)					10YR4/1 灰色	白黒粒子	良 5	中世		
12	土師器	かわらけ	(11.8)	3.2	(7.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5YR7/4 にふい橙褐色	赤・白色粒子、白黒小石、 雲母	良 15	中世		
13	土師器	灯明皿	(7.0)	1.8	(4.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系ナリ	赤白黒粒子、白黒小石、 雲母	良 70	中世	口唇部にスス	
14	石器	すり鉢	(5.1)			かき目	ロクロナデ	5YR6/3 にふい橙褐色	白色小石、雲母	良 5	中世		
15	土師器	かわらけ	(13.0)	3.4	7.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系ナリ	赤白黒粒子、白色小石、 雲母	良 70	中世		
16	土師器	かわらけ	(14.2)	3.0	(7.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系ナリ	赤白黒粒子、白小石、 雲母	良 40	中世		
17	土師器	かわらけ	(14.0)	3.0	(7.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系ナリ	内: 10YR7/2 にふい黄 褐色 外: 7.5YR7/4 にふい 橙褐色	赤白黒粒子、白小石、 雲母	良 30	中世	
18	土師器	かわらけ	(8.8)	1.8	(4.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系ナリ	赤黒粒子、赤白黒小石、 雲母	良 40	戦国		
19	土師器	坏	(2.0)	(7.25)		ロクロナデ	ロクロナデ	回転系ナリ	赤色粒子、黒色小石、 雲母	良 5	中世		
20	土師器	かわらけ	(1.2)	(5.5)		ロクロナデ	ロクロナデ	回転系ナリ	7.5YR6/4 にふい橙褐色	赤黒粒子、雲母	良 20	中世	見込みに渦巻き 状の工具痕

5 甲府警察署甲府駅前交番改築工事《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目1番9号	調査期間	令和4年4月21日～22日
担当者	正木季洋、久保田健太郎、佐藤孝志	調査面積	約3㎡（対象地約65㎡）

調査の目的

甲府警察署甲府駅前交番改築工事がおこなわれる甲府駅南口の西側付近は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内にあり、江戸時代には柳沢家家老屋敷などの武家屋敷地にあたることから、試掘調査を実施することとなった。

調査の状況と結果

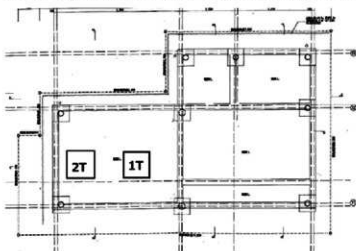
調査は、幅1.2m、長さ1.2mのトレンチを2本設定した。地表下1.5～1.6mまで掘削を行ったが、地表直下の碎石層以下は現代から近代までの造成土層が見られ、造成土層中から瓦片が出土したが遺構は確認されていない。



第1図 調査地点位置図（1/25,000）

調査初見

平成27・28年度に今回の調査対象地の南側約30mで実施した甲府城下町遺跡公衆用トイレ建設地点の発掘調査では、地表下1.6mの造成土下に近世の遺物包含層が堆積しており、今回の調査地点も同様の堆積であると思われる。工事における最大掘削深度は地表下1.3mであるため、今回の地点においては遺物包含層まで30cmの保護層が確保されることから、埋蔵文化財の保護措置は不要と判断される。しかし、工事時の不時発見に備え、工事掘削時に文化財専門職員による立会調査が必要と判断される。



第2図 トレンチ配置図



第3図 土層堆積状況



1T 完掘状況

6 富士技術支援センターイノベーション支援棟（仮称）建設工事《包蔵地外》

所在地	富士吉田市下吉田六丁目16番2号	調査期間	令和4年5月12日
担当者	正木季洋	調査面積	11.4㎡（対象地約850㎡）

調査の目的

富士技術支援センターは富士山から流下した溶岩や土石流によって形成された火山扇状地上に位置し、周囲には友屋敷遺跡や下吉田新屋敷等の周知の埋蔵文化財包蔵地が分布する。ここに支援棟が建設されることから、埋蔵文化財の不時発見に備え試掘調査を実施することとなった。



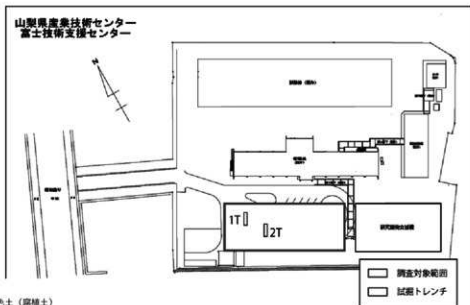
第1図 調査地点位置図（1/25,000）

調査の状況と結果

調査は、幅約1.2m、長さ約4.7m、掘削深度1.5～1.9mのトレンチを2本設定した。地表下0.55～0.7mまでは現代から近代までの造成土層が見られ、その下層には径10cm以下の円礫を主体とする礫層が堆積する。3層下には旧耕作土層とみられる4・5層が堆積し、その下部に黒色スコリアの純層、黒褐色土層が堆積し、その下部、地表下1.5～1.9mの底では溶岩が確認されている。いずれの土層中からも遺構・遺物は確認されていない。

調査初見

調査の結果、各トレンチから遺構や遺物の確認はできなかったため、今回の事業における埋蔵文化財の保護措置について、問題ないものと判断できる。



1T		
0m	1	1: 7.5YR2/2黒褐色土（腐植土）
GL-30cm	2	2: 7.5YR3/2黒褐色土、炭化物、3cm以下のスコリア少量を含む
GL-70cm	3	3: 径10cm以下の礫層
GL-85cm	4	4: 7.5YR1.7/1黒色土（旧耕作土）
GL-95cm	5	5: 7.5YR3/2黒褐色土、径3mm以下のスコリア少量を含む
GL-110cm	6	6: 10YR1.7/1径3mm以下の黒色スコリア層
GL-130cm	7	7: 10YR2/2黒褐色土、径5mm以下のスコリア少量含む
GL-140cm	8	8: 7.5YR2/3暗黒褐色土、径5mm以下のスコリア少量含む
GL-160cm	9	9: 7.5YR2/2黒褐色土、径5cm以下のスコリア極めて少量を含む
GL-190cm	溶岩	

第2図 トレンチ配置図及び土層堆積状況



1T土層堆積状況

7 国道411号和戸アクセス道路建設工事《包蔵地外》

所在地	甲府市和戸町 415-3、415-11、421、423-1	調査期間	令和4年5月23日～25日
担当者	正木季洋、深澤鉄朗	調査面積	62.1㎡（対象地約2,156㎡）

調査の目的

調査地点は、甲府盆地の北縁に位置する。八人山と大蔵経寺山との谷間から流れる大山沢川により形成された扇状地緩斜面に立地しており、調査地点の北側には大坪遺跡等の古代から中世の遺跡が集中し、南側には富士塚古墳等の古墳が点在する地域である。当該地点に国道411号が延長するため、埋蔵文化財の不時発見に備え、試掘調査を実施することとなった。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

調査は、幅約2.1～2.6m、長さ約3.4～5.7m、掘削深度1.75～2.9mのトレンチを6本設定した。

1トレンチは地表下0.45mまで宅地造成などの造成土層が堆積し、以下は褐色や黒褐色等の粘質土層が見られたものの、遺構や遺物が存在する土層は確認できなかった。

2～6トレンチは、地表下約0.70mまでの造成土層下に旧耕作土層である2層が堆積する。以下は暗褐色や黒色等の粘質土層が堆積し、地表下2m前後では泥炭層である黒色粘湿土層が確認されている。いずれも安定した堆積ではあるが、遺構・遺物は確認されなかった。

調査初見

試掘調査の結果、今回の対象範囲からは遺構・遺物の確認はできず、埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと思われる。しかし、周辺地域においては遺跡の密集地であることから、今後も東側における事業予定地の試掘調査を積極的に行うなど、継続的な調査が必要であると考えられる。



第2図 トレンチ配置図

1 T		
0m	造成土	
GL-45cm	1	1 : 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土、炭化物含む
GL-60cm	2	2 : 10YR2/3黒褐色粘質土、鉄分多量に含む
GL-75cm	3	3 : 10YR3/3暗褐色粘質土、鉄分多量に含む
GL-95cm	4	4 : 10YR4/4褐色粘質土、鉄分極めて多量に含む
GL-115cm	5	5 : 10YR2/2黒褐色粘質土、鉄分極めて多量に含む
	6	6 : 10YR1.7/1黒色粘質土
GL-160cm	7	7 : 2.5YR4/2暗灰黄色粘質土
GL-185cm		8 : 10YR2/2黒褐色粘質土、暗灰黄色シルトが縞状に入る
GL-240cm	8	
GL-250cm		



1T完掘状況



1T土層堆積状況



4T完掘状況



4T土層堆積状況

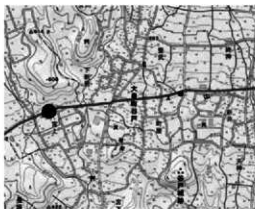
8 大泉駐在所建替工事《城上第3遺跡》

所在地	北杜市大泉町谷戸城上 2966 番 1	調査期間	令和 4 年 8 月 5 日
担当者	久保田健太郎	調査面積	3 m ² (対象地約 231.48 m ²)

調査の目的

北杜市内における大泉駐在所改築工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地城上第3遺跡の一部が掘削されることとなった。これに伴い、掘削予定地内における埋蔵文化財の有無や内容の確認を目的とした試掘調査を実施することとなった。

なお、調査は山梨県警察本部会計課との協議に基づき、既存建築物の撤去工事の一環で行うこととなり、解体業者の協力を得て実施した。調査対象地内に既設の配管が存置されていることから、限定的な範囲での調査となった。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

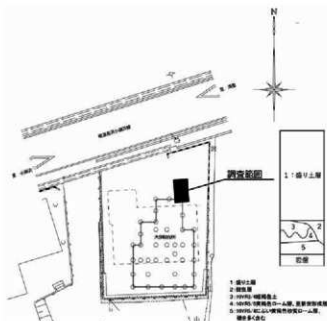
調査の状況と結果

調査対象地は八ヶ岳を最高標高点として南側に向けて傾斜している。よって、南側は傾斜を解消するための盛り土が厚く形成していることが予想され、掘削は北側で実施した。掘削範囲は既存建築物や配管を避けた約1.5×2.5m (約3m²) で、現地表下約1.6mまで掘削した。

現地表下0.8mまでは盛り土層で、下層を削平して形成していた。当該地点においては黒色土が存在せず、わずかに漸移層がのこるのみで、現地表下0.9m以下はローム層となる。調査底面は岩盤である。ローム層は岩盤付近で礫含有量が多くなる。当該トレンチからは遺構・遺物は発見されなかった。

調査初見

今回の試掘調査では、当該地点における過去の土地改変に伴い、黒色土が存在しておらず、完新世の埋蔵文化財は確認できないことが明らかとなった。また、更新世段階の埋蔵文化財についても、遺構・遺物が認められなかった。このことから、試掘調査対象範囲については工事を進めても問題ないものと判断される。



第2図 トレンチ配置図及び土層堆積状況

9 県立青少年センター運動場芝生整備事業《桜井畑遺跡》

所在地	甲府市川田 517 番地	調査期間	令和4年9月5日～7日
担当者	正木季洋、高野玄明	調査面積	12.6 m ² (対象地約 4,030 m ²)

調査の目的

県立青少年センター運動場芝生整備事業により、青少年センター運動場に給水・電気設備を埋設することに伴い、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である桜井畑遺跡が存在していることから、試掘調査を実施することとなった。

当遺跡は、昭和63年、平成元年に桜井畑A・B・C遺跡として発掘調査が行われ、古墳時代前期～平安時代に至る遺構や遺物が確認されている。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

調査地点の甲府市川田地内は、甲府市東部に位置し、甲府盆地北縁の八人山、大蔵経寺の南方に位置し、大山沢川、平等川によって形成された沖積地の微高地上の標高約264m上に立地する。

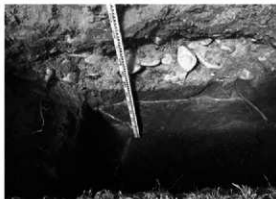
事業地内の運動場内に幅1.2m、長さ2.1～2.3m、深さ0.85～1.3mのトレンチを5本設定し、調査を実施した。

1号トレンチは、幅0.8m、長さ2.2m、深さ0.85mの規模で設定した。地表下0.7m程まで盛土による造成が行われており、旧地表であったと思われる緑石がトレンチ中央から確認されたことから、これ以下の掘削を行うことができなかった。2号トレンチは、地表下0.4m程で黒色の粘質土が確認され、その黒色土中に古代～平安時代の土器片が確認されており、包含層の厚さは0.3m程で、その下部には黄褐色の砂質土が確認された。

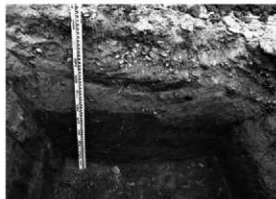
3号トレンチでは、地表下約0.7mまで造成による客土が確認され、それ以下には、遺物を包含する黒色粘質土の存在は確認されず、遺物も確認できなかった。4号トレンチでは、地表下0.7mで、2号トレンチ同様の黒色の粘質土が見られ、にぶい黄褐色の砂質土を掘り込む形で、時期は不明であるが遺構が検出された。5号トレンチでは、地表下0.55m程で、同様の黒褐色粘質土が確認されているが、遺構や遺物は確認できなかった。

調査初見

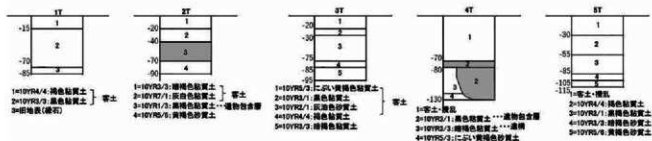
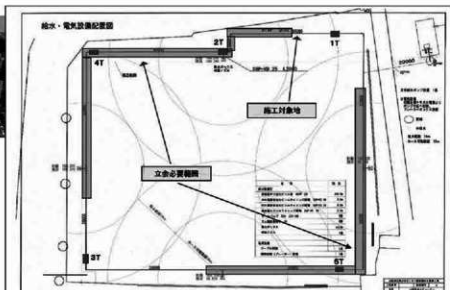
調査の結果、昭和63年、平成元年時に行われた発掘調査と同様な地層や深さから、遺構や遺物が確認できている。このため埋蔵文化財の対応は必要となるが、今回の事業は、運動場の芝生張り替えに伴う埋設管敷設工事のため、掘削幅は極めて狭小であり、工事着手時には専門職員の立会を行う事とした。



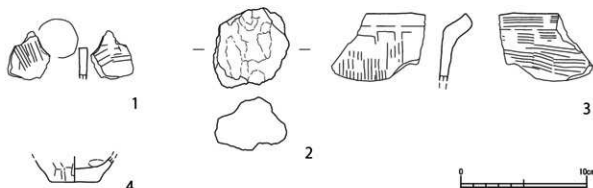
4T土層堆積状況



5T土層堆積状況



第2図 トレンチ配置図および土層堆積状況



第3図 出土遺物実測図

第1表 出土遺物観察表

番号	種別	器形	寸法 (cm)		調整技法			色調	胎土	焼成	残存率 (%)	時期	備考
			口径	器高	底径	内面	外面						
1	土器	置きカマド	(3.9)					7.5YR4/4 褐色	赤色粒子、白色砂粒、雲母	良	2	平安	
2	粘土塊							7.5YR7/4 にぶい橙褐色					
3	土師器	甕	(5.3)					5YR5/4 にぶい赤褐色	赤色粒子、白・黒砂粒、雲母	良	10	平安	
4	土師器	壺	(2.0)	(3.6)				7.5YR3/1 黒褐色	黒色粒子、白色砂粒	良	2	古墳	

10 一般国道138号新屋拡幅工事《包蔵地外》

所在地	富士吉田市上吉田 30-3、31-1、34-1、40-1、41-1、22-1、44-1 番地	調査期間	令和4年10月17日～18日 令和5年2月20日～21日
担当者	數野優、高野玄明、秋山富貴雄	調査面積	30.9 m ² (対象地約1,015 m ²)

調査の目的

一般国道138号新屋拡幅工事は、主要渋滞箇所の解消を目指して、平成24年4月に国交省直轄事業「国道138号新屋拡幅」として事業化され、令和2年には先行整備区間として工事着手している。

調査地点は、富士山北麓の扇状に広がる緩傾斜の高原地帯で、富士山噴火により供給された土砂が裾野に堆積した火山麓扇状地である。この地には吉田・上吉田遺跡や宿場町が存在し、埋蔵文化財が出土する可能性があるため、試掘調査を行った。



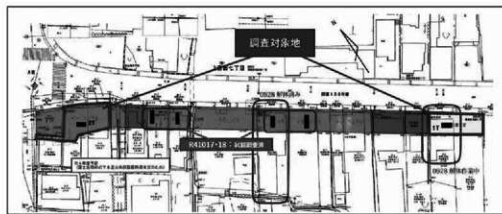
第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

幅1.6m、長さ3.2～4.8m、深さ2.1～2.15mを測るトレンチを6本設定したところ、全体として宅地造成による碎石や客土の下に、褐色灰色や暗褐色などのスコリア層の堆積が確認され、一番下の層では粘性がなく、岩盤のように固く締まったスコリア層で、各トレンチとも、遺構や遺物は検出できなかった。

調査初見

今回の結果、遺構及び遺物の確認はできなかった。このため、埋蔵文化財の保護措置は必要ないが、道路拡幅部分において、寺院の参道がかかる箇所があるため、拡幅部分周辺の歴史的環境を踏まえて、試掘調査を実施していく必要がある。



第2図 トレンチ配置図及び土層堆積状況

1T		2T	
0	1=75%砂質土：暗褐色土、スコリア(30cm) 層中に含む。	1	1=75%砂質土：暗褐色土、スコリア(30cm) 層中に含む。
-20	2=75%砂質土：暗褐色土、暗色スコリア(30cm) 含む。	2	2=75%砂質土：暗褐色土、暗色スコリア(30cm) 含む。
-40	3=75%砂質土：暗褐色土、暗色スコリア(30cm) 層中に含む。	3	3=75%砂質土：暗褐色土、暗色スコリア(30cm) 含む。
-60	4=7と同じ。	4	4=2と同じ。
-80	5=75%砂質土：暗褐色土、しまり強い。		
-100	6=75%砂質土：暗褐色土、小礫(1～3cm) 多く含む。		
-120	7=75%砂質土：暗褐色土、小礫(1～3cm) 多く含む。		
-140	8=75%砂質土：暗褐色土、小礫(1～3cm) 多く含む。		
-160	9=75%砂質土：暗褐色土、しまり強く、非常に硬い。		
-180	10=75%砂質土：暗褐色土、スコリア。		
-200	11=75%砂質土：暗褐色土、暗色スコリア(暗褐色土)が混じる。		
-220	12=75%砂質土：暗褐色土。		

1T土層堆積状況



11 急傾斜地崩壊対策工事《御座田遺跡》

所在地	釜崎市龍岡町下條南割 1953-1	調査期間	令和4年10月20日・21日・24日、11月17日・18日
担当者	岩永祐貴、秋山浩文	調査面積	約9㎡(対象地約6,000㎡)

調査の目的

山梨県中北建設事務所峡北支所が計画する急傾斜地崩壊対策工事を行うこととなったが、当該地に周知の埋蔵文化財包蔵地である御座田遺跡が存在する。

御座田遺跡は、これまで複数回発掘調査が実施され、山梨県では最古級とされる、古墳時代後期から平安時代にかけての窯跡が発見された。

当該地はハチ岳の山体崩落による堆積が釜無川によって削られた龍岡台地上にあり、東側は崖が広がる。傾斜地には窯本体や、周囲に窯へアクセスする為の道も想定できることから、その傾斜地で人力掘削による調査を行った。



第1図 調査地点位置図(1/25,000)

調査の状況と結果

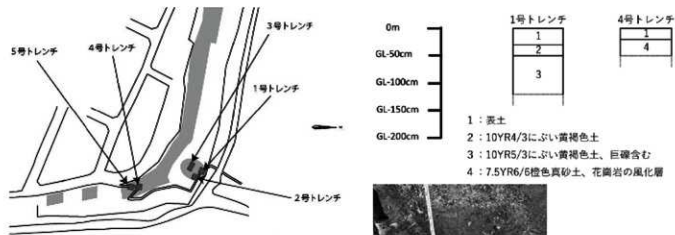
工事の過程でモノレールを打設するというので、まず、その基礎に合わせて3本のトレンチを設定した。1～3号トレンチは表土の下に2次堆積と考えられる地層を認めた。遺物の出土はなく、窯の本体や道と想定できる硬化した土も認められなかった。

4号、5号トレンチは、崖上部の赤道と工事施工範囲が重なる地点に設定した。両トレンチは、表土下に風化した花崗岩から成る岩盤層を検出したのみで、遺構・遺物は認められなかった。

調査初見

今回の試掘調査では、山梨県埋蔵文化財事務取扱要綱に基づく保護対象となる遺構・遺物が認められなかった。このことから、試掘調査範囲については工事を進めても問題ないものと判断される。

ただし、周辺は御座田遺跡の包蔵地内であり、今後も本調査地点周辺では、丁寧な調査をして、適切に保護すべき対象を把握する必要がある。



トーチの範囲：急傾斜地崩壊対策工事範囲（モノレール基礎含む）

第2図 トレンチ配置図



1T土層堆積状況

12 一般国道358号遠光寺北交差点改良事業《包蔵地外》

所在地	甲府市伊勢一丁目9-7番地	調査期間	令和4年10月26日
担当者	高野玄明、秋山富喜雄	調査面積	約4.3㎡（施工対象面積約32.0㎡）

調査の目的

国道358号遠光寺北交差点は朝夕に著しい渋滞が発生することから、交差点前後350m、甲府駅方面の車線を1車線から2車線に拡幅改良することが計画され、用地取得された拡幅部分の一部を試掘調査することとなった。

事業対象地は包蔵地外であるが、13世紀に建てられたと伝えられる遠光寺付近であることから試掘調査を行うこととなった。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

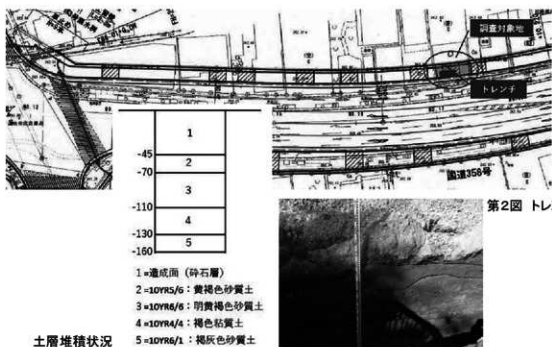
調査地点は、荒川の左岸標高約262mの低地の扇状地に位置する。

調査は、幅1.2m、長さ3.6m、深さ1.6mのトレンチを1箇所設定し、調査を実施した。

トレンチの状況は、地表から0.45m程、碎石等の造成面、第2層には黄褐色が0.35m、第3層には明黄褐色の砂質土が0.40m程、第4層には褐色の粘質土が0.2m程堆積していた。この粘質土を精査したが、旧堤防の痕跡などの遺構や遺物の確認はできなかった。第4層の下には第5層の灰色砂質土が厚く堆積していた。

調査初見

試掘調査の結果、遺構や遺物の確認はできなかったため、工事に着手しても問題はない。しかし、調査地点の東側約100m付近には伊勢町遺跡（古墳）、食料工場遺跡（縄文～弥生）が存在しており、今後、拡幅部分において、用地の確保ができた段階で、順次、積極的に試掘調査を実施していく必要がある。



第2図 トレンチ配置図

土層堆積状況

13 切石地区築堤護岸工事《包蔵地外》

所在地	南巨摩郡身延町切石 265-2	調査期間	令和4年10月31日～11月1日
担当者	岩永祐貴、秋山浩文	調査面積	30㎡(対象地約1,300㎡)

調査の目的

国土交通省が計画する切石地区築堤護岸工事に伴い、身延町切石地区の一級河川富士川の築堤工事をすることとなった。

当該地点は、南北を山に囲まれ、夜子沢川と富士川によって形成された谷底平野である。国道52号が通っている付近が、周辺に比べて微高地になっており、切石地区には年貢米などを舟積みした切石河岸が存在していた船着き場があったとされていることから遺跡の可能性があるため、試掘調査を行うこととなった。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

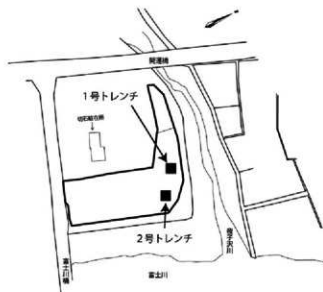
調査の状況と結果

調査では、2つのトレンチを掘削したところ、堆積状況は同じであった。地表下約1mまで現代物が混じる層が厚く堆積する。これより下層の5・6層が逆級化しており、1単位の洪水堆積層と考えられる。7層は径5cm台の円礫を含む粘質土層で、8層は径約1mの巨礫が堆積していた。また、遺構及び遺物は確認されなかった。

調査初見

今回の試掘調査では、山梨県埋蔵文化財事務取扱要綱に基づく保護対象となる遺構・遺物が認められなかった。このことから、試掘調査範囲については工事を進めても問題ないものと判断される。

ただし、絵図と周辺地形から、国道52号周辺では埋蔵文化財が存在する可能性が高い。このため、周辺の工事予定範囲においても、遺跡の有無を主眼とした試掘調査を継続する必要がある。



第2図 トレンチ配置図及び土層堆積状況



2T土層堆積状況



14 道の駅富士川駐車場整備事業《包蔵地外》

所在地	南巨摩郡富士川町青柳町地内	調査期間	令和4年11月24日～12月2日 令和5年1月10日～16日
担当者	上野桜、高野玄明、秋山富喜雄	調査面積	約475.7㎡（調査対象面積約8,456㎡）

調査の目的

道の駅富士川は、平成26年7月に開設され、利用者の増加に伴い国土交通省により新たな駐車場整備事業の計画がなされた。

富士川町（旧増穂町）は、甲府盆地の南端に位置し、当町の東側では笛吹川や釜無川、利根川といった複数の河川が流入する氾濫原となっている。調査地はその氾濫原上にあり、江戸時代には甲州三河岸に数えられる青柳河岸が存在した。また、調査地には町屋口遺跡が隣接し、平成10年度、平成21・22年度の発掘調査では、青柳河岸に通じる「河岸御蔵道」や水路跡等、さらに近世の水田跡が確認された。

以上のことから、当該地において試掘調査を実施した。



第1図 調査地点位置図（1/25,000）

調査の状況と結果

試掘調査は、幅1.5～2.7m、長さ3.1～13.8m、深さ0.9～2.0mのトレンチを25本設定して行った。

調査の結果、第1号～10号トレンチでは、第1層に耕作土、第2層は、にぶい褐色砂質土、第3層に灰黄色砂質土がみられる等、河川氾濫による砂層の堆積が顕著である。第3層以下には、暗青灰色、灰褐色のシルト層が確認されている。一部には造成による擾乱が深さ1.0m近く及ぶ箇所が見られたが、8号トレンチから深さ1.0mの灰黄褐色砂質土直下に、一部ではあるが、トレンチ断面に褐色を呈する砂礫層の硬化面が見られた。この硬化面は道路状遺構である可能性が想定されたため、隣接する箇所にも9号・10号トレンチを設定したところ、上面で幅2.0m、裾部で幅約4.0mのカマボコ状を呈する硬化面が検出された。

これはその形状から道路状遺構「河岸御蔵道」と判断し、その範囲や付属する水路の有無等の確認をおこなったところ、確認された「御蔵道」は地表下1.0m程、灰黄褐色砂質土の直下に小礫と粘土で構築された非常に硬化面が確認され、事業地に長さ約75m程続いていることが判明した。

また、水路については18号トレンチにおいて、地表下1.3m程でにぶい黄褐色粘質土に水路が掘り込まれていた。幅は約1.73mで板材を並べ、水路を構築し、それを補強する形で水路の内側に約0.78m間隔で木杭が見られた。水路は南北方向に約35m続くと思われ、それより先は調査区外に延びる。

また、9・20・21号トレンチからは、幅1.6m程の溝状の落ち込みが確認されたが、詳細は不明である。

また、22号・23号トレンチからは、深さ0.7m程で畝状遺構が確認され、御蔵道等より上面で検出されていることから、御蔵道と同時期もしくは、比較的新しい時期に属すると思われる。

出土遺物については、「御蔵道」や水路跡等からの遺物は確認されていない。

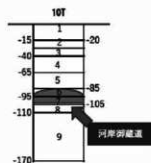
調査初見

今回の調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である「青柳町町屋口遺跡」に続く河岸御蔵道や水路が確認されたことから、青柳町町屋口遺跡が南側及び東側に延びることが判明し、遺跡の範囲変更を行っている。

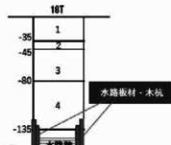
確認された青柳河岸に関する「御蔵道」等は、近現代に属する遺跡ではあるが、地域の歴史にとって欠くことのできない遺跡であり、周辺部での開発事業が行われる場合には、注意が必要である。



第2図 トレンチ配置図

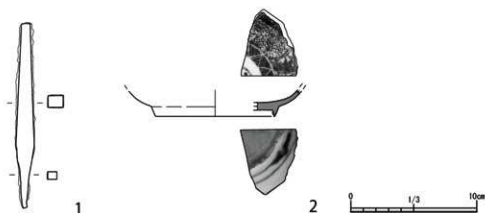


- 1=遺成土
 2=7.5YR6/3 : にぶい褐色砂質土
 3=7.5YR4/1 : 褐色色砂質土(しまりあり)
 4=7.5YR6/1 : 褐色色砂質土(しまりあり)
 5=7.5YR6/1 : 褐色色砂質土(しまりあり)
 6=7.5YR4/5 : 褐色粘質土(しまりあり、小礫(1~3mm大)含む)
 7=7.5YR6/1 : 褐色色砂質土(しまりあり)
 8=7.5YR4/2 : 灰褐色粘質土(しまり・粘性あり)



- 1=遺成土
 2=10YR6/3 : にぶい黄褐色粘質土
 3=5B4/1 : 暗灰色粘質土
 4=10YR6/2 : にぶい黄褐色粘質土

第3図 土層堆積状況



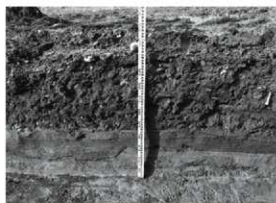
第2図 出土遺物実測図

第1表 出土遺物観察表

番号	種別	器形	寸法(cm)			調整技法			色調	胎土	焼成	残存率(%)	時期	備考
			口径	器高	底径	内面	外面	底面						
1	鉄製品	船釘?	1.5	1.1	14.7							100	近世?	
2	磁器	皿?	(2.1)	(9.3)		型紙転写	二重圏線	高台	2.5Y8/1 灰白色		良	5	近世~近代	染付



掘削状況



4T土層堆積状況



9T御蔵道検出状況



10T御蔵道断面確認状況



18T水路跡検出状況



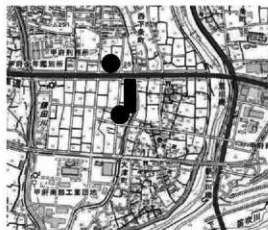
23T畝状遺構検出状況

15 (主) 甲府中央右左口線1号線アクセス道路建設工事《包蔵地外》

所在地	甲府市大津町地内	調査期間	令4年12月5日～8日
担当者	岩永祐貴、秋山浩文	調査面積	約140㎡(対象面積約9,140㎡)

調査の目的

山梨県中北建設事務所が計画する(主)甲府中央右左口線1号線アクセス道路の建設工事を行うこととなったが、当該地の西側約600mには、山梨県産業技術センターがあり、そこからは中世の遺構が検出されている。よって、調査地点は包蔵地外であるが、中世の遺跡が埋蔵している可能性があるため試掘調査を行った。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

調査地点周辺は、釜無川などから形成された扇状地扇端部であり、この地理的特徴から湧水が激しいことが想定された。

16本のトレンチを設定し、遺構・遺物を検出したトレンチを中心に検出状況等を述べる。

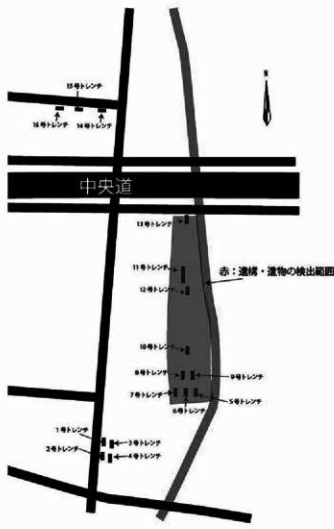
5～13号トレンチでは、15世紀と考えられる水田跡を検出した。東西方向に延びる畦畔を8号トレンチと11号トレンチで認めた。畦畔を形成する6層は、炭化物を多く含むシルト層で15世紀と考えられる坏や播鉢を包含する。6層は、中央自動車道(以下、中央道)に隣接する地点まで広がっていたため、広範囲に遺跡が広がっていることが想定できる。

14～16号トレンチは中央道の北側で実施した。ここからは、5～13号トレンチで発見された6層にあたる堆積土は認められなかった。また、西へ向かうにつれ湧水深度が浅くなる特徴があった。

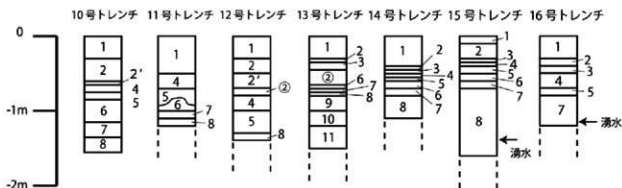
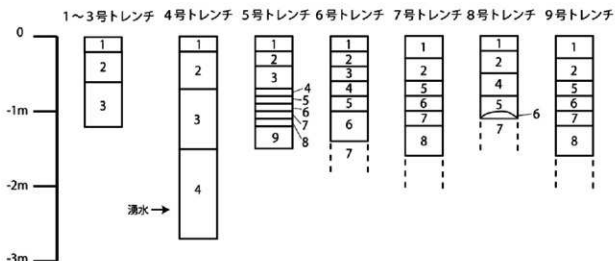
調査初見

今回の試掘調査では、15世紀の水田跡を検出したため埋蔵文化財の保護措置が必要と考えられる。

また、南北方向に広い範囲で遺跡が広がっていると想定されるため、試掘調査を継続して実施し、遺跡範囲を適切に把握することが必要である。



第2図 トレンチ配置図



1～3号トレンチ

- 1 表土
- 2 耕作土
- 3 攪乱、埋め戻し土

4号トレンチ

- 1 1～3号トレンチの1層と同じ
- 2 1～3号トレンチの2層と同じ
- 3 1～3号トレンチの3層と同じ
- 4 N4/1 灰色シルト グライ化

5～13号トレンチ

- 1 耕作土
- 2 10YR4/1 褐灰色砂質土 礫混じり
- 2' 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 2層と土色が異なる
- ② 10YR5/1 褐灰色砂質土 炭化物含む 木が多く混じり、円礫含む
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 炭混じる 粗砂
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 細砂
- 5 10YR5/2 灰黄褐色シルト 炭化物を微量含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐色シルト 炭化物多量含む 礫混じる 遺物包含層
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 炭化物微量混じる 鉄分沈着部分みられる
- 8 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 9 10YR5/1 褐灰色シルト
- 10 10YR5/1 褐灰色砂質シルト
- 11 10YR6/1 褐灰色シルト

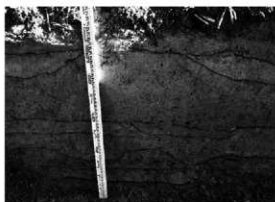
14、15号トレンチ

- 1 表土
- 2 耕作土
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト
- 4 2.5Y4/1 黄灰色砂混じりシルト 炭多量 円礫混じる
- 5 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト
- 6 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト
- 7 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト 炭化物混じる
- 16号トレンチはグライ化（灰色）して、土色異なる
- 8 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト ラミナ構造

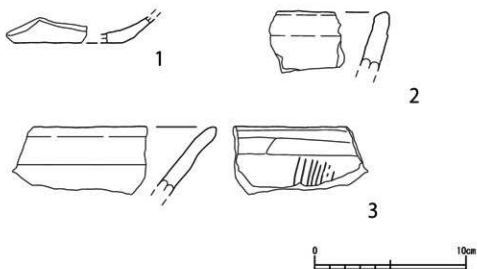
第3図 土層堆積状況



8T土器出土状況



11T畦畔出土状況



第4図 出土遺物実測図

第1表 出土遺物観察表

番号	種別	器形	寸法 (cm)			調整技法			色調	胎土	焼成	残存率 (%)	時期	備考
			口径	器高	底径	内面	外面	底面						
1	土器器	坏		(1.7)					10YR7/3 に近い 黄褐色	赤白黒砂粒、 雲母	良	10	中世	
2	土器器	鉢		(3.9)		ヨコナデ	ヨコナデ		2.5Y4/2 暗灰黄色	白色小石、石 英、雲母	良	5	古墳	内面にわずかに ススあり
3	土器器	すり鉢		(4.5)		口唇部横位へ ラナデ 胴部かき目	横位へラナデ		5YR6/6 橙色	赤色粘土、白 黒砂粒、雲母	良	10	中世	

16 国道52号上石田道路改良事業《包蔵地外》

所在地	甲府市富竹一丁目地内	調査期間	令和5年1月30日～2月2日
担当者	正木季洋、上野桜、高野玄明	調査面積	約27.12㎡（施工対象面積約4,600㎡）

調査の目的

国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所による国道52号の上石田道路改良事業が計画され、今回、上石田一丁目～富竹一丁目までの0.25kmにおいて工事を行うこととなった。

調査対象地は甲府盆地をほぼ南側に流れる荒川で形成された扇状地上で、調査対象地周辺には上石田遺跡、上石田B遺跡、石田屋敷が所在し、旧甲州街道（現在の国道52号）に関連する遺構があることが予想されたため、試掘調査を実施した。



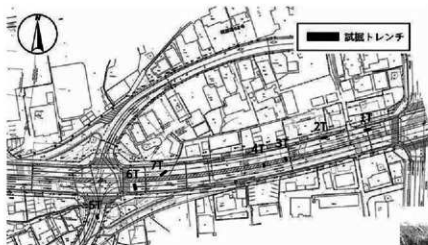
第1図 調査地点位置図（1/25,000）

調査の状況と結果

調査は、幅1.0～1.6m、長さ2.1～4.8m程のトレンチを7箇所設定し調査を実施したところ、各トレンチとも同じ堆積であり、地表下0.7mまで造成土と耕作土であり、その下は砂礫層となる。また、各トレンチとも遺構や遺物は、確認されなかった。

調査初見

試掘調査の結果、今回の調査地において、遺構・遺物は確認できず、埋蔵文化財保護措置は不要である。しかし、旧甲州街道（国道52号）近接地および、その北側の用地において、地形上の高まりが見られることから引き続き試掘調査を実施する必要がある。



0m	1	1：2.5Y3/2黒褐色砂質土、コンクリート片を含む
GL-30cm	2	2：2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土、φ5cm以下のオリーブ褐色細粒砂ブロック含む
GL-50cm	3	3：2.5Y3/1黒褐色砂質土、炭化材、1cm以下ブロック含む
GL-70cm	4	4：2.5Y4/4オリーブ褐色細粒砂、鉄分多く含む
GL-95cm	5	5：2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土、炭混じる
GL-110cm	6	6：2.5Y7/2灰黄色粗砂、φ10cm以下の円礫を多く含む
GL-140cm		



第2図 トレンチ配置図及び土層堆積状況

III 立会調査

17 濁川流域グラウンド貯留施設工事《山梨大学遺跡・武田城下町遺跡》

所在地	甲府市大手二丁目1番地（山梨大学グラウンド内）	調査期間	令和4年4月5日
担当者	正木季洋	調査面積	約180㎡

調査の目的

山梨県県土整備部が計画する濁川流域グラウンド貯留施設工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である山梨大学遺跡および武田城下町遺跡内を掘削することとなった。

工事は山梨大学グラウンド西辺と南辺に沿って自重力擁壁が設置される計画である。工事地点は南向きの緩斜面地上にあり、グラウンド建設にあたって北側は切り土、南側は盛土造成がおこなわれている。工事対象範囲のうち、造成土厚が薄いものと想定される計画擁壁北辺より約8mの範囲を対象に工事立会を実施することとなった。

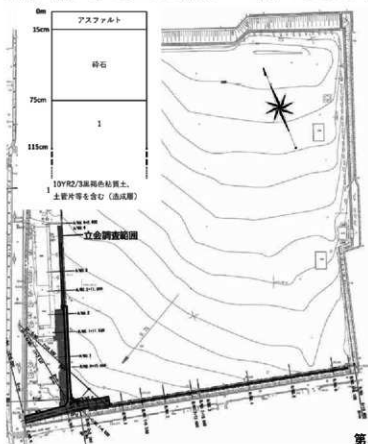


第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

工事は幅約2.2m、グラウンド面より地表下約1.15mの規模で掘削が行われ、立会調査は掘削された箇所断面観察を行った。

地表下約0.75mの厚さでグラウンド表層の砂層および碎石層が堆積し、その下部に造成層である黒褐色粘質土層が堆積する。工事による掘削はこの1層中にとどまり、遺構・遺物の存在は確認できなかった。



調査初見

今回の工事立会は、造成土層中の掘削であり、遺構・遺物は確認されないことから工事を進めても問題ないものと判断される。ただし、当該地にはさらに下層に埋蔵文化財が存在する可能性があるため、引き続き、掘削を伴う改修工事等の開発行為に関しては、埋蔵文化財に対する協議や対応は必要である。



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況

18 舞鶴城公園植栽事業（花壇撤去）《史跡甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目 49 番地	調査期間	令和 4 年 5 月 28 日
担当者	野代恵子	調査面積	約 60 m ²

調査の目的

工事箇所は、屋形曲輪の東側の堀外の稲荷曲輪西端にあたる箇所であり、江戸時代中期の『楽只堂年録』には堀外の土手や南北方向の道があった位置であることが想定される。近代以降に城内へ入る通路が設置されており、舞鶴城公園が作られるなど大きく改変が加えられている場所である。



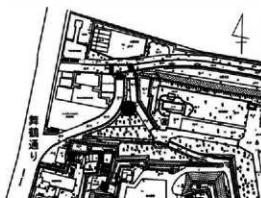
第1図 調査地点位置図（1/25,000）

調査の状況と結果

施工内容は、既設の花壇内の土壌をすき取った後、その上に防草シートを敷き、碎石を入れてならすものであり、すき取り土壌は花壇設置時に搬入されたものであることから新たな掘削箇所は生じなかった。

調査初見

今回立会を行った施工範囲においては、新規掘削は生じなかったことから、地下遺構への影響はなく、史跡の保護上問題はないものと判断した。



第2図 立会調査位置図



土壌のすき取り作業状況

19 曾根丘陵公園照明設備改修工事《岩清水遺跡》

所在地	甲府市下向山町地内	調査期間	令和4年5月30日～6月1日
担当者	正木季洋、深沢鉄朗	調査面積	約9㎡（工事対象面積約9㎡）

調査の目的

都市公園曾根丘陵公園内には東山南遺跡や上の平遺跡等の周知の埋蔵文化財包蔵地が埋設保存されている。今回、山梨県県土整備部により曾根丘陵公園内の照明設備改修工事が計画され、16基の既存照明の撤去および同地点での新規設置がおこなわれることとなった。このうち、考古博物館構内古墳、岩清水遺跡、史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳に近接している照明6基（No.132・135・140・143・167・168）を対象に立会調査を実施することとなった。



第1図 調査地点位置図（1/25,000）

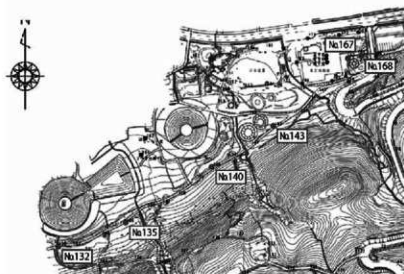
調査の状況と結果

工事は、幅約1.5m四方、深さ約1.1～1.5mの規模で掘削が行われ、立会調査は土層の断面観察と、遺構や遺物の確認を行うこととした。

いずれの地点でも腐植土層および既存照明基礎掘削範囲内での掘削であり、遺構や遺物の存在は確認できなかった。

調査初見

今回の立会調査地点周辺は、前述のとおり考古博物館構内古墳や岩清水遺跡、史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳等の遺構が埋設保存されているが、今回の工事による掘削は保存されている遺構に影響がなく問題ないものと判断できる。しかし、前述したとおり、曾根丘陵公園内には数多くの周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しているため、引き続き、公園内の掘削を伴う改修工事等の開発行為に関しては、埋蔵文化財に対する協議や対応は必要である。



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況



20 甲府警察署甲府駅前交番改築工事《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目1番地9号	調査期間	令和4年6月10日
担当者	正木季洋	調査面積	約6㎡（工事対象面積約65㎡）

調査の目的

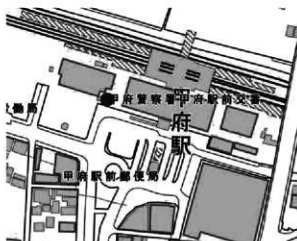
甲府警察署甲府駅前交番改築工事が行われる甲府駅南口の西側付近は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内にあり、江戸時代には柳沢家老屋敷などの武家屋敷地にあたることから、令和4年4月に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、地表下1.6m以下に近世の遺物包含層があると推定され、工事により30cm以上の保護層が確保されることから発掘調査による保護措置は不要となった。しかし、工事時の不時発見に備えて工事掘削時に立会調査が必要であることから、今回は既存建物解体時に立会調査を実施した。



第1図 調査地点位置図（1/25,000）

調査の状況と結果

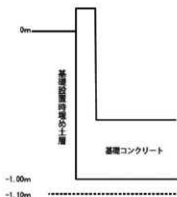
工事は、既存建物範囲全城を深さ約1.0～1.1mの規模で掘削が行われ、既存掘削範囲内での工事であり、遺構・遺物は確認されなかった。



第2図 立会調査位置図

調査初見

調査により工事を進めても問題はないこととなったが、周囲の調査状況や令和4年4月の試掘調査結果から地表下1.6m以下に近世の遺物包含層が堆積していることが推測される。当該地における今後の建設工事において30cm以上の保護層が確保されると思われるが、工事時の不時発見に備え、工事掘削時に文化財専門職員による立会調査が必要と判断される。



第3図 土層堆積状況



掘削状況

21 県庁噴水広場芝生化工事《史跡甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目6番地1号	調査期間	令和4年6月22日～27日
担当者	正木季洋	調査面積	約70㎡

調査の目的

山梨県庁は史跡甲府城跡の楽屋曲輪のほぼ全域および屋形曲輪と清水曲輪の一部に位置しており、県庁耐震化等整備工事に伴う確認調査（県庁構内前庭地点（平成26年度））により確認された石垣等の遺構が埋設保存されている。今回、山梨県総務部資産活用課により県庁の噴水広場周辺において芝生化工事が行われることとなり、散水施設設置のための工事掘削にあわせて立会調査を実施した。



第1図 調査地点位置図（1/25,000）

調査の状況と結果

工事は、幅約0.6m、深さ約0.6mの規模で掘削が行われ、県庁本館入口東地点および噴水東西地点では近現代造成層内での掘削に留まり、遺構や遺物は確認されなかった。

噴水北東部地点では地表下0.43mで埋設保存されている石垣の裏栗層を確認したが、それ以上の掘削は行わず土のう袋による養生を行った。

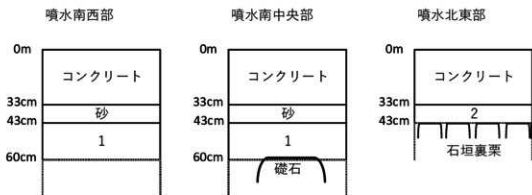
噴水地点南西部ではコンクリート等舗装下に暗褐色粘質土層が堆積し、土層中より瓦片が多量に出土している。遺構は確認されていない。

噴水地点南中央部では地表下0.63mの工事掘削底面で礎石2基を確認した。礎石2基については土のう袋による養生の後、埋設保存を行った。

調査初見

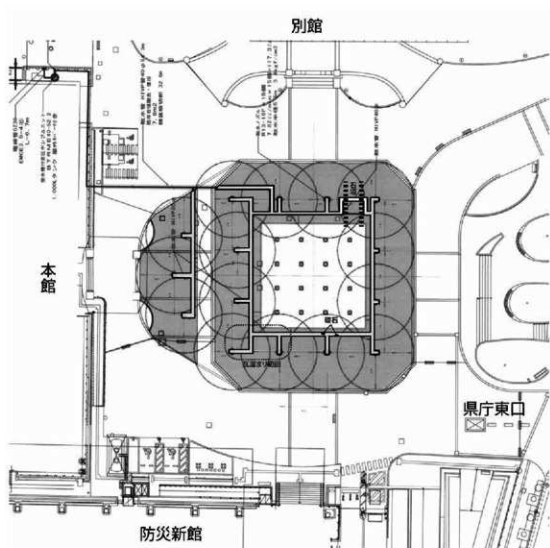
今回の立会調査により、平成26年度に実施した発掘調査により確認した石垣のほか、2基の礎石を確認した。この礎石付近は甲府城追手門西側の番所推定地にあたり、確認された礎石も番所に伴うものの可能性がある。

今回確認した遺構はすべて埋設保存することとなったが、県庁構内には他にも数多くの甲府城に関連する遺構が埋設保存されているため、引き続き、県庁構内において掘削を伴う改修工事等の開発行為に関しては、埋蔵文化財に対する協議や対応は必要である。



- 1 = 10YR/3/1暗褐色土、10cm以下の亜角礫多量に含む、瓦片出土
 2 = 7.5YR/3/1黒褐色土、砂礫多量に含む

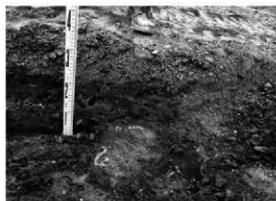
第2図 土層堆積状況



第3図 国会調査位置図



噴水南西地点土層堆積状況



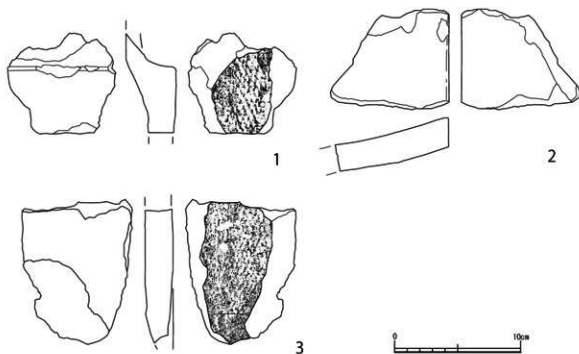
噴水南地点礎石検出状況



噴水南地点土層堆積状況



噴水北東地点土層堆積状況



第4図 出土遺物実測図

第1表 出土遺物観察表

番号	種別	器形	寸法 (cm)			調整技法			色調	胎土	焼成	残存率 (%)	時期	備考
			口径	器高	底径	内面	外面	底面						
1	瓦	丸瓦	(8.6)	(8.0)	4.0	吊結痕	へう調整	10Y5/1 灰色	2mm 程の白・黒色小石	やや不良	5	近世初頭		
2	瓦	平瓦	(9.4)	(8.0)	2.3			10Y4/1 灰色			20	近世初頭		
3	瓦	平瓦	(11.5)	(8.8)	2.3	吊結痕	へう調整	10Y5/1 灰色	2mm ほどの白色小石・黒色小石		20	近世初頭		

22 笛吹高校農場防犯灯改修工事《狐原遺跡》

所在地	笛吹市石和町中川 1307 地内	調査期間	令和 4 年 8 月 22 日
担当者	高野 玄明	調査面積	約 2 m ²

調査の目的

笛吹高校は、笛吹川の支流である金川の南西部の金川扇状地に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡に含まれる。

立会調査は、笛吹高校付属農場内の防犯灯改修工事に伴うもので、今年度は 2 カ所の防犯灯の改修が行われるため、必要深度まで掘削を行う中での断面観察や遺構・遺物の有無の確認を行う事とした。



第 1 図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

防犯灯改修工事に伴う基礎部分の掘削規模は、2 カ所とも 1 m 四方、深さ 0.6 m の掘削と、中心部に直径 0.15 m、深さ 0.5 m の防犯灯ポール埋設部分の掘削が人力により行われた。

調査の結果、地表下 0.2 ~ 0.25 m までは、暗褐色の砂質土（細粒）、2 層目にはにぶい黄褐色の砂質土（中粒砂）が 0.25 ~ 0.40 m 程堆積している。それ以下は、直径 0.15 m、深さ 0.5 m 程、掘り下げているが、1.0 ~ 3.0 cm 大の小礫が混じる褐色の砂礫層が確認できた。

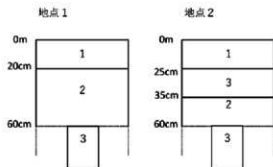
今回の立会調査の結果、掘削された 2 カ所からは遺構や遺物の確認はできなかった。



第 2 図 立会調査位置図

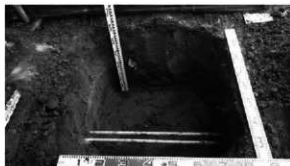
調査初見

今回の立会調査において、遺構・遺物の確認はできなかった。しかし、事業地及び事業周辺は周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の範囲内であることを踏まえ、掘削等が伴う開発事業がある場合は、協議を十分に行う中で埋蔵文化財の保護措置を行っていく必要がある。



- 1 = 10YR/3/3暗褐色砂質土
 2 = 10YR/5/3にぶい黄褐色砂質土
 3 = 褐色砂礫、1~3cmほどの礫を含む

第 3 図 土層堆積状況



土層堆積状況（地点 1）

23 笛吹高校農場止水弁バルブ取替工事《狐原遺跡》

所在地	笛吹市石和町中川 1304 地内	調査期間	令和 4 年 8 月 29 日
担当者	正木季洋	調査面積	約 1 m ²

調査の目的

笛吹高校は、笛吹川の支流である金川の南西部の金川扇状地に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡に含まれる。

立会調査は、笛吹高校付属農場内の給水バルブ取替工事に伴うもので、必要深度まで掘削を行う中での断面観察や遺構・遺物の有無の確認を行った。



第 1 図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

給水バルブ取替工事に伴う基礎部分の掘削規模は、1 m 四方、深さ 0.7 m の掘削が人力により行われた。

調査の結果、地表下 0.7 m までは、既存給水バルブ設置時の埋土である黒褐色土が堆積しそれ以下は、コンクリート底板が確認できた。

今回の立会調査の結果、遺構や遺物の確認はできなかった。

調査初見

今回の立会調査において、遺構・遺物の確認はできなかった。しかし、事業地及び事業周辺は周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の範囲内であることを踏まえ、掘削等が伴う開発事業がある場合は、協議を十分に行う中で埋蔵文化財の保護措置を行っていく必要がある。



第 2 図 立会調査位置図



土層堆積状況

24 釜無川スポーツ公園改修整備工事（ドッグラン整備）《信玄塚》

所在地	甲斐市竜王 2256	調査期間	令和4年9月14日
担当者	岩永祐貴	調査面積	約1.14㎡（工事対象地933㎡）

調査の目的

山梨県県土整備部が計画する釜無川スポーツ公園改修整備工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である「信玄塚」の範囲内を工事することとなった。

釜無川スポーツ公園内のドッグランの整備に伴いドッグランの柵の基礎を設置するため、幅1m未満の掘削が伴うことから工事立会を実施することとなった。

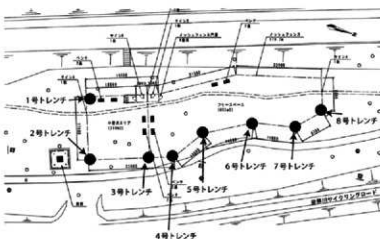


第1図 調査地点位置図（1/25,000）

調査の状況と結果

掘削は1ヶ所あたり幅約0.3m・長さ約0.6m・深さ約0.5mの規模で行われた。立会は柵の折れ点の8ヶ所で実施し、土層の観察と遺構や遺物の確認を行うこととした。

調査の結果、現在の堤防側と旧堤防側で土層堆積内容が異なっていることがわかった。防水林の効果で現堤防側には、基質が粗砂で粒径の大きな岩石が多く含まれる様相が認められ、一方で旧堤防側は、礫を含まない細砂が安定して堆積している様相が認められた。工事による掘削は表土とその1層下までおよび、遺構・遺物の存在は確認できなかった。



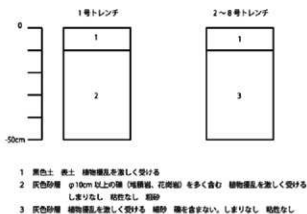
第2図 立会調査位置図

調査初見

今回の工事立会では遺物が認められず、想定される堤防跡の構造も確認できなかった。このことから、工事を進めても問題ないものと判断される。



4号トレンチ土層堆積状況



第3図 土層堆積状況

25 産業技術センター高度技術開発棟他解体工事《包蔵地外》

所在地	甲府市大津町2094 地内	調査期間	令和4年11月21日、令和4年12月2日
担当者	正木季洋・高野玄明	調査面積	約700㎡

調査の目的

事業地点は、甲府盆地のほぼ中央に流れる鎌田川と、その東に流れる荒川に挟まれた沖積地上に位置する。令和3年度には隣接地で実施した中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う試掘調査において、地表下約0.8mの深さより中世の畑跡及び柱穴等が確認されている。

立会調査は、産業技術センター高度技術開発棟他解体工事に伴い、必要深度まで掘削を行った後、断面観察や遺構・遺物の有無を確認した。

調査の状況と結果

高度技術開発棟は地表下2.3m以上、実験排水処理施設は地表下2.0m以上、既存建物建設により掘削されている状況であった。

車庫は地表下1.0m、薬品庫は地表下1.8m以上、既存建物建設により掘削されている状況であった。また、両建物間においては、地表下1.1m以下に近世の磁器片が出土するオリブ褐色土層が堆積している状況を確認した。

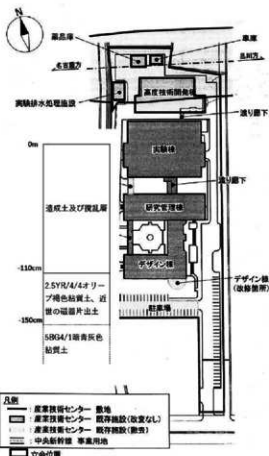
調査初見

今回の立会調査において、中世以前の遺構・遺物の確認はできなかったが、事業地は周囲より約1mの盛り土が施されており、隣接地における試掘調査成果から地表下約1.8m付近で中世の畑跡等が存在している可能性がある。高度技術開発棟および実験排水処理施設建設地は既存の建物により地表下2.0m以上掘削され、中世の畑跡等は既に破壊されていると推測されるが、車庫-薬品庫間では地表下1.1m以下に近世の磁器片が出土する土層が確認されており、今回の立会調査対象外であった各建物間部分には埋蔵文化財が残存している可能性がある。

以上のことから、今後、掘削等に伴う開発事業がある場合は、協議を十分に行う中で埋蔵文化財の保護措置を行っていく必要がある。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況

26 県立青少年センター運動場芝生整備事業《桜井畑遺跡》

所在地	甲府市川田 517 番地	調査期間	令和 4 年 12 月 23 日～ 28 日、令和 5 年 1 月 6 日～ 13 日・26 日
担当者	正木季洋・高野玄明	調査面積	約 175.8 m ²

調査の目的

県立青少年センター運動場芝生整備事業に伴い給水管や電気設備の埋設が計画され、事業地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である桜井畑遺跡が存在していることから、事前に包含層や遺構確認面などの文化層の把握のための試掘調査を令和 4 年 9 月 5 日(月)～7 日(水)に行っている。(pp.42-43 参照)



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

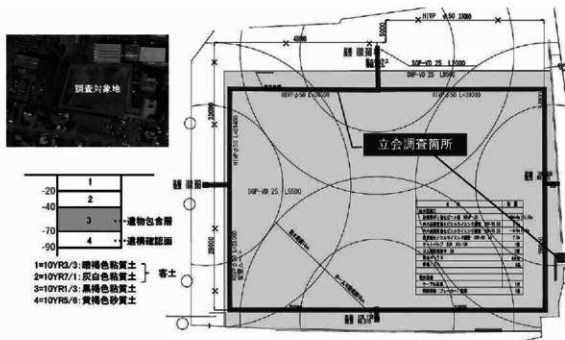
調査の状況と結果

当初は、試掘調査の結果を踏まえ、グラウンド造成等により既に遺構確認面や包含層の存在が把握できない箇所と、把握できる箇所とに分け、必要な部分において立会調査を行った。しかし、埋設管が当初計画よりグラウンド内側に変更されたため、埋設管設置箇所について、幅0.6m、深さ0.7m、長さ293mの範囲での立会調査を実施することとなった。

調査の結果、地表下0.7mの掘削であることから、部分的に遺構や遺物が確認される黒褐色粘質土まで掘削が及ぶ箇所が見られた。黒褐色粘質土中には、平安時代・古墳時代の遺物や遺構が確認できている。

調査初見

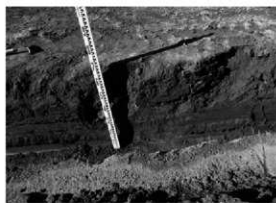
前回の試掘調査や立会調査において、平成元年時に行われた発掘調査と同様な地層から、遺構や遺物が確認できていることから、今回の立会箇所周辺部は、埋蔵文化財の包蔵地が濃密な地域であり、注意が必要である。



第2図 立会調査位置図



作業風景



土層堆積状況1



土層堆積状況2



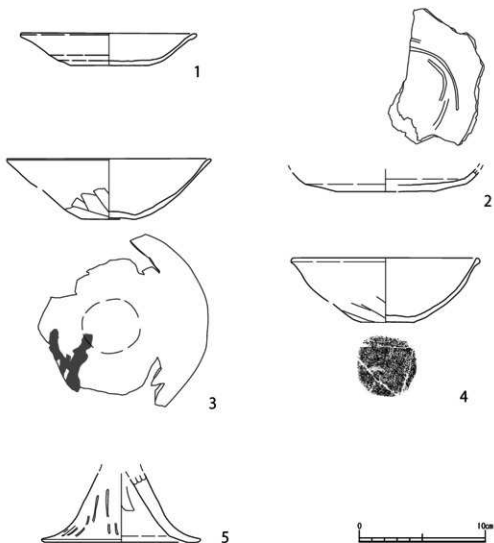
土層堆積状況3



遺構検出状況



遺物出土状況



第3図 出土遺物実測図

第1表 出土遺物観察表

番号	種別	器形	寸法 (cm)			調整技法			色調	胎土	焼成	残存率 (%)	時期	備考
			口径	器高	底径	内面	外面	底面						
1	土師器	皿	13.8	6.4	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ、 胴部下半ヘラケズリ 後ナデ調整	ヘラケズリ後ナデ 調整	5YR6/6 褐色	赤・黒色粒子	良	95	平安 (10c)	
2	土師器	皿	(1.8)	(7.6)		ロクロナデ。 見込みに繪文あり	ロクロナデ	回転糸ギリ痕わず かにあり	7.5YR7/4 にぶ い褐色	赤色粒子、赤 色砂粒	良	20	平安 (9c)	
3	土師器	坏	16.0	4.8	4.4	ロクロナデ	胴部下半ヘラケズリ、 ロクロナデ	ヘラケズリ	内：7.5YR5/3 にぶい褐色 外：7.5YR5/4 にぶい褐色	赤色粒子、白・ 赤色砂粒	良	80	平安 (10c)	底部に 墨書?
4	土師器	坏	(15.0)	5.1	(4.0)	ロクロナデ	胴部下半ヘラケズリ、 ロクロナデ	ヘラケズリ後ナデ 消し	5YR6/6 褐色	赤色粒子、白・ 赤色砂粒	良	30	平安 (10c)	
5	土師器	高坏 脚部	(5.4)	(12.0)		ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、わずかに ミカキ		5YR6/6 褐色	赤色粒子、白・ 黒砂粒	良	20	古墳中期	

27 釜無川スポーツ公園改修整備工事（遊具改修）《信玄堤》

所在地	甲斐市竜王 2256	調査期間	令和5年1月16日・31日
担当者	正木季洋	調査面積	約2.6㎡

調査の目的

山梨県土整備部が計画する釜無川スポーツ公園改修整備工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である「信玄堤」の範囲内を工事することとなった。

工事内容は、釜無川スポーツ公園内の遊具施設の老朽化に伴い、既存の遊具を解体し、同一箇所に新設する。改修予定遊具施設の内、信玄堤に近接するダブル踏み台昇降およびゆらぐら渡りの二地点を対象とし、基礎掘削時に埋蔵文化財センター職員が立ち会うこととなった。



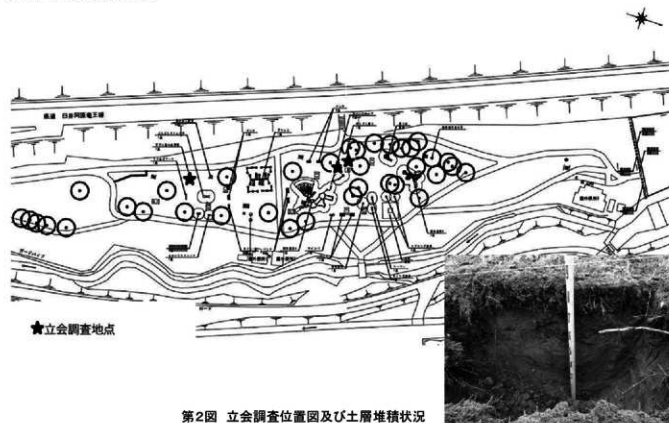
第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

両地点とも、地表下0.8mまでの掘削であり、0.1～0.3mの厚さで堆積する表土層下は河川堆積層である中粒砂・粗砂層が堆積しており、堤防跡とみられる版築や石積みの痕跡等や、遺物の確認はできなかった。

調査初見

今回の工事立会では遺物や、想定される堤防跡の構造も確認できなかった。このことから、工事を進めても問題ないものと判断される。



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況

28 舞鶴城公園数寄屋曲輪漆喰塀控え木改修工事《史跡甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目地内	調査期間	令和5年1月23日～2月9日
担当者	中村有希	調査面積	約20㎡

調査の目的

舞鶴城公園（数寄屋曲輪箇所）の漆喰塀の控え木は平成12年に設置されたものであり、経年劣化により腐食しているため、改修することとなった。控え木の改修は既設と同位置に設置されるが、掘削を伴うため立会調査を行うこととなった。

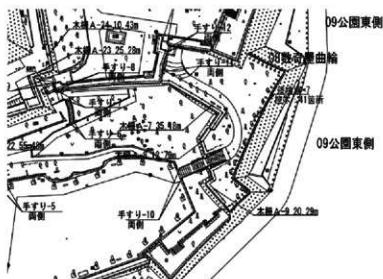
調査の状況と結果

立会調査では人力によって控え木42本の基礎部を掘削し、その掘り方で土層を確認した。掘り方は一辺0.75mの正方形で深度は平均0.7mである。

ほとんどの地点で表土の下は碎石や拳大の石混じりでありしまりのない褐色粘質土であった。また、控え木No.26においては、地表下0.1mにおいて、礫が混ざるしまりのない黒褐色粘質土を60cmの厚さで確認した。また、その下にはしまりのある黄褐色粘質土が確認された。しまりのある黄褐色粘質土は、平成4年の調査で確認された版築層に対応する可能性もあり、これより上で確認されているしまりのない黄褐色細粒砂及び褐色粘質土は近現代に形成されたものと考えられる。地表下0.3m～0.5m程度のところからは瓦が出土しているが、碎石やビニール、ガラス片などが混入する層に含まれるものであり、攪乱層からの出土である。

調査初見

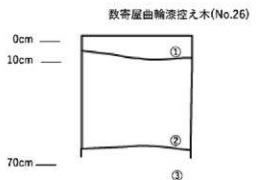
全ての立会箇所において、遺構等は検出されず、出土した瓦も攪乱層に伴うものであることから、遺構に影響はないものと判断した。



第2図 立会調査位置図



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)



- ①Hue10YR6/6黄褐色細粒砂、締まりなし（表土）
- ②Hue10YR3/1黒褐色粘質土、礫が混ざる締まり無し
- ③Hue10YR5/8黄褐色粘質土、締まりあり

第3図 土層推積状況



土層推積状況

29 パスポートセンター改修工事《史跡甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目6番地1号	調査期間	令和5年1月23日
担当者	高野玄明	調査面積	約4.2㎡(工事対象面積約4.2㎡)

調査の目的

パスポートセンター改修に伴い、県庁北別館正面玄関右となりにおいて、配管敷設のため、幅0.8m、深さ0.6～0.7m、長さ6.0mの掘削が行われ、さらには電灯設置の基礎工事のため1.3mの掘削が行われることから、立会調査を行う事となった。

この地点周辺は、楽屋曲輪内の柳門東側にあった番所北東部の石垣の存在が示唆される箇所であり、2005年の試掘調査でも深さ1mで石垣の入隅部が確認されている。



第1図 調査地点位置図(1/25,000)

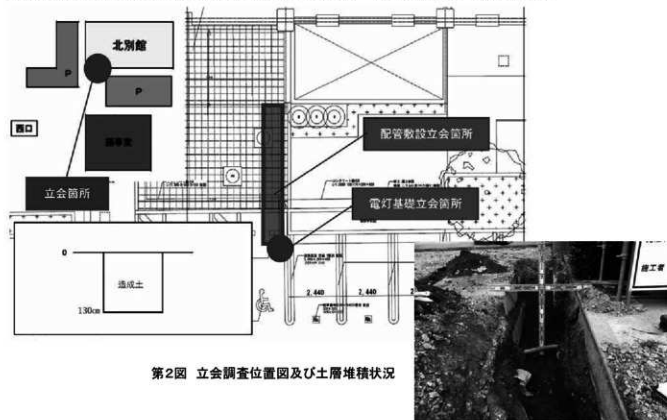
調査の状況と結果

配管敷設箇所において立ち会ったところ、既存掘削の範囲内で、石垣の存在や地山の確認はできなかった。

電灯設置箇所では、基礎部分にあたる深さ1.3mから、石垣部材と思われる石材1点を確認された。しかし、石材周辺を精査したが、石材の周辺に連続する石積みは確認されず、埋土の範囲内に動かされていること等から、電灯設置箇所から移動し、隣接する植樹帯に埋設保存することとした。

調査所見

今回の調査では既存掘削範囲内での工事であり、石垣等の遺構や遺物は確認されなかったが、県庁構内には、史跡甲府城跡に関する石垣などの遺構が存在しているため、今後も対応していく必要がある。



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況

30 御勅使南公園施設改修工事《御勅使川堤防址群》

所在地	南アルプス市六科 1588-2 (御勅使南公園遊戯ゾーン)	調査期間	令和5年1月24日
担当者	高野玄明	調査面積	約1.7㎡(工事対象面積約1.7㎡)

調査の目的

御勅使南公園内において、公園施設の老朽化に伴う改修工事が昨年度から継続的に行われており、今回は旧堤防址の裾部分に、新たな水飲み場が設置されることとなった。公園内及びその周辺部には、御勅使川に関する旧堤防址が数多く存在していることから、立会調査を実施した。

調査の状況と結果

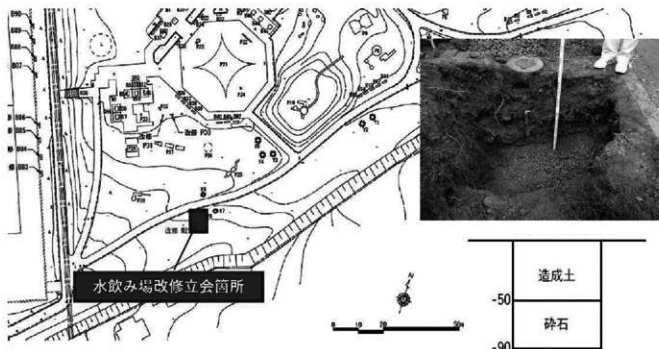
水飲み場設置箇所について、1.3m×1.3m、深さ0.9mの範囲での掘削が行われた。場所は旧堤防址の裾部分にあたるが、掘削したところ、暗褐色粘質土の客土とその下部には碎石層がみられる等、公園造成の既存掘削の範囲内であり、旧堤防址に関する石積みなどの痕跡は見られなかった。



第1図 調査地点位置図(1/25,000)

調査初見

今回の調査では既存掘削範囲内での工事であり、旧堤防に関する遺構や遺物は確認されなかったため、工事を進めて差し支えはない。



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況

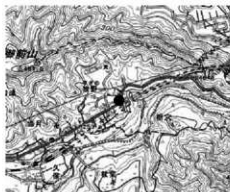
31 桂川流域下水道桂川2号幹線2条化建設工事《牧野遺跡》

所在地	上野原市四方津地内	調査期間	令和5年1月30日
担当者	正木季洋	調査面積	約4㎡

調査の目的

事業地点は、山梨県東部、桂川北岸の河岸段丘上に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である牧野遺跡に含まれる地点である。

立会調査は、桂川流域下水道桂川2号幹線2条化建設工事に伴うもので、施工前の埋設物等確認のための試掘調査に伴い、必要深度まで掘削を行う中での断面観察や遺構・遺物の有無の確認を行うこととした。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

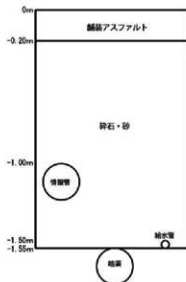
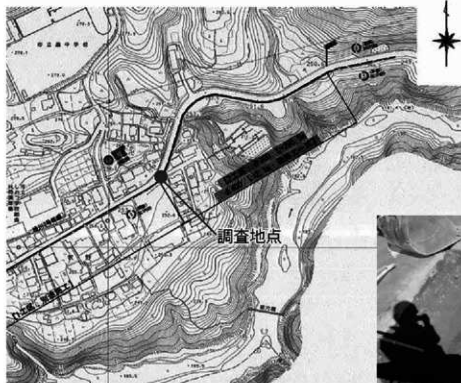
調査の状況と結果

調査は業者の重機により、2.0m四方、深さ1.55mで掘削したトレンチで行った。

調査の結果、舗装アスファルト下は地表下1.55mまで既存埋設管・暗渠等による既掘の範囲であり、遺構や遺物の確認はできなかった。

調査初見

今回の立会調査において、遺構・遺物の確認はできなかったため、工事を進めても問題はない。



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況

32 緑が丘スポーツ公園屋外分煙施設設置工事《緑ヶ丘二丁目遺跡》

所在地	甲府市緑が丘二丁目地内	調査期間	令和5年2月3日
担当者	正木季洋	調査面積	約30㎡

調査の目的

事業地点は、甲府盆地の北端部、相川右岸の扇状地に位置する。周辺は、縄文時代～平安時代の遺跡が数多く分布し、事業地点も周知の埋蔵文化財包蔵地である緑ヶ丘二丁目遺跡内にある。

立会調査は、緑が丘スポーツ公園屋外分煙施設工事に伴うもので、屋外分煙施設と2基の矢羽根サインを対象に、必要深度まで掘削を行う中での断面観察や遺構・遺物の有無の確認を行う事とし、立会調査を実施した。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

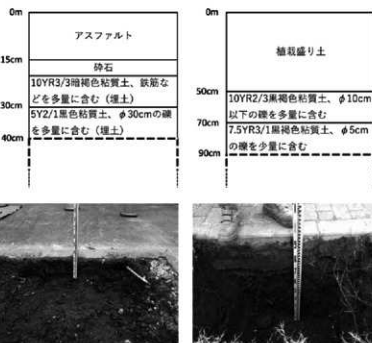
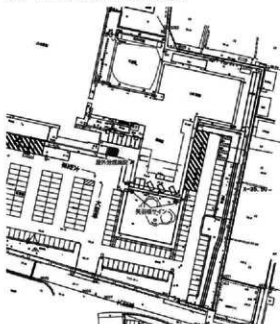
調査の状況と結果

屋外分煙施設箇所では、長さ6.0m、幅4.7mの範囲内で深さ0.4mまでの掘削が行われた。アスファルト舗装下は現代の造成土層が堆積しており、この造成土層内での掘削に留まり、遺構・遺物は確認されなかった。

矢羽根サイン箇所は0.6m四方、深さ0.9m規模の掘削が行われた。地表下0.5mまで堆積する植栽造成土層の下は黒褐色粘質土層が堆積していたが、遺構・遺物は確認されなかった。

調査初見

今回の立会調査において、遺構・遺物の確認はできなかったため、工事を進めても問題ない。しかし、事業地内は緑ヶ丘二丁目遺跡などの周知の埋蔵文化財包蔵地が存在するため、今後も注意が必要である。



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況
(左が屋外分煙施設箇所、右が矢羽根サイン箇所)

33 釜無川スポーツ公園屋外トイレ改築工事《信玄堤》

所在地	甲斐市竜王 2256	調査期間	令和5年2月7日
担当者	高野玄明	調査面積	約9㎡（施工対象面積約30.5㎡）

調査の目的

山梨県県土整備部が計画する釜無川スポーツ公園改修整備工事に伴い老朽化した公園内の屋外トイレを解体、新設する。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「信玄堤」の範囲内のため埋蔵文化財の立会調査をすることとなった。

工事内容は、釜無川スポーツ公園内の屋外トイレの老朽化に伴い、既存のトイレを解体し、同一箇所に新設する改修工事である。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

調査は、既存の屋外トイレを解体し、同一箇所に新たなトイレが建設される事から、既存トイレの基礎部分の撤去時に立会調査を実施することとなった。

既存トイレの基礎は、地表下1.3mまで埋設されており、新設トイレの基礎に伴う掘削はさらに下にまでおよび2.0m程掘り下げた。結果、既存トイレの基礎の下には粗砂に礫が混在する層が確認されたのみで、堤防跡とみられる版築や石積みの痕跡等や遺物の確認はできなかった。

調査初見

今回の工事立会では遺物や、想定される堤防跡の構造も確認できなかったため、工事を進めても問題ないものと判断される。



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況

34 曾根丘陵公園屋外分煙施設設置工事《上の平遺跡》

所在地	甲府市下向山町地内	調査期間	令和5年2月8日
担当者	高野玄明	調査面積	約11.9㎡（施工対象面積約11.9㎡）

調査の目的

山梨県県土整備部が計画する風土記の丘曾根丘陵公園屋外分煙施設設置工事に伴い、設置する箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地である「上の平遺跡」に隣接しており、掘削が及ぶことから立会調査を実施することとなった。



第1図 調査地点位置図 (1/25,000)

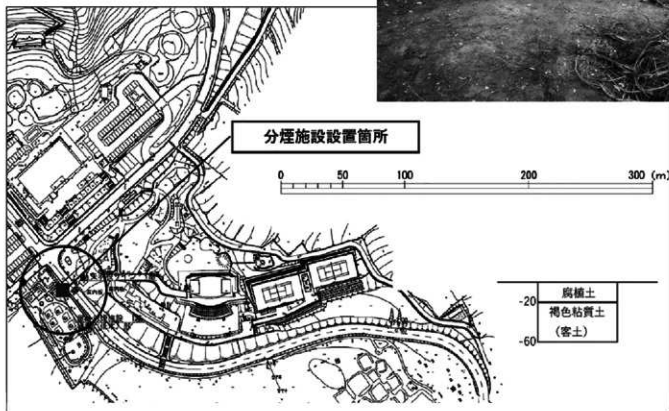
調査の状況と結果

立会調査は、屋外分煙施設の基礎部分2.6m×4.6m、深さ0.6mの掘削が行われた。確認された土層は、地表下0.2mまで腐植土がみられ、その下部には公園造成による客土（褐色粘質土）が確認されている。

今回の調査地点において、遺構や遺物の確認はできなかった。

調査初見

今回の工事立会では遺構や遺物の確認はできなかった。このことから、工事を進めても問題ないものと判断される。



第2図 立会調査位置図及び土層堆積状況

35 市川大門郵便局建設工事《御陣屋遺跡》

所在地	西八代郡市川三郷町市川大門 234 番地 5	調査期間	令和 5 年 3 月 28 日
担当者	数野 優・内田祥一	調査面積	約 325 m ²

調査の目的

当該地点では日本郵便株式会社が市川大門郵便局建設工事を令和 4 年度から行うにあたり、新庁舎建設部分については周知の埋蔵文化財包蔵地である御陣屋遺跡の範囲であることから令和 4 年 3 月から 5 月まで発掘調査を実施した。

御陣屋遺跡は笛吹川の南岸に形成された微高地にある。微高地には古代寺院の平塩寺や伝義清館などが存在し、近世以降は市川代官所や当時の町割りが入っている。

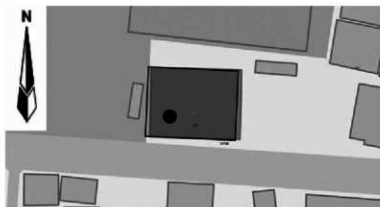
今回は隣接する既存庁舎の解体および跡地での駐車場施工に伴う立会調査である。



第 1 図 調査地点位置図 (1/25,000)

調査の状況と結果

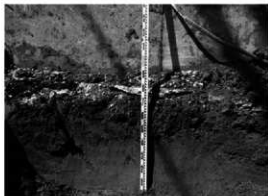
調査では、施工箇所の南西 1 箇所において地下状況を確認したところ、地表下 0.2m 付近までは既存建物のコンクリート基礎、0.7m 付近までは攪乱であり、その下層の中粒砂層では遺物や遺構は確認されなかった。



調査初見

立会調査の結果、遺物や遺構は見られなかったこと、また、本来の土壌の大部分が以前の郵便局建設などにより攪乱され失われていたことから、工事を継続して差し支えないと判断した。しかし、周知の埋蔵文化財包蔵地である御陣屋遺跡に含まれているため、今後も掘削を伴う工事のときには注意する必要がある。

今後も掘削を伴う工事のときには注意する必要がある。



第 2 図 立会調査位置図及び土層堆積状況



報 告 書 抄 録

ふりがな	やまなしけんないふんぶちょうさほうこくしょ
書名	山梨県内分布調査報告書（令和4年4月～令和5年3月）
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第345集
編者名	野代志子、正木孝洋、敢野健、久保田健太郎、上野桜、岩永祐貴、佐賀桃子、高野玄明、内田洋一、中村有希、左右右裕、池準一、佐藤孝志、深沢真珠、秋山富貴雄、秋山浩文
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL.055-266-3016
発行機関	山梨県
発行日	2024年3月15日

	No.	事業名・道跡名	所在地	調査面積	調査対象面積	調査期間
試掘・確認調査	1	史跡甲府城跡愛宕山石切堀跡の整備事業（史跡甲府城跡愛宕山石切堀跡）	甲府市・身延町	21.26㎡	—	令和4年6月13日～令和5年3月10日
	2	中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事事業（包蔵地・外）	笛吹市～富士川町	約84,140㎡	約2,965.2㎡	令和4年4月26日～令和5年3月9日
	3	中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事都留保守基地建設事業（包蔵地外）	都留市小形山内	163.5㎡	5,010㎡	令和4年9月26日～令和5年2月8日
	4	新山梨長尾道路東区間Ⅱ期建設事業（包蔵地・外）	甲府市～笛吹市内	1820㎡	45,661㎡	令和4年6月3日～12月2日
	5	甲府警察署甲府駅前交番改築工事（甲府城下町遺跡）	甲府市丸ノ内地	3㎡	65㎡	令和4年4月21日～22日
	6	富士技術支援センターイノベーション支援棟（仮称）建設工事（包蔵地外）	富士吉田市下吉田内	11.4㎡	850㎡	令和4年5月12日
	7	国道411号和戸アクセス道路建設工事（包蔵地外）	甲府市和戸町内	62.1㎡	2,156㎡	令和4年5月23日～25日
	8	大泉駐在所建替工事（城上第3遺跡）	北杜市大泉町谷戸内	3㎡	231.48㎡	令和4年8月5日
	9	県立青少年センター運動場芝生整備事業（桜井塚遺跡）	甲府市川田内	12.6㎡	4,030㎡	令和4年9月5日～7日
	10	一般国道138号新築拡幅工事（包蔵地外）	富士吉田市上吉田内	30.9㎡	1,015㎡	令和4年10月17日～令和5年2月21日
	11	急傾斜地崩壊対策工事（御所田遺跡）	韮崎市龍岡町下條南割内	9㎡	6,000㎡	令和4年10月20～11月18日
立会調査	12	一般国道358号逢光寺北交差点改良事業（包蔵地外）	甲府市伊勢内	4.3㎡	32㎡	令和4年10月26日
	13	切石地区築堤護岸工事（包蔵地外）	身延町切石内	30㎡	1,300㎡	令和4年10月31日～11月1日
	14	道の駅富士川駐車場整備事業（包蔵地外）	富士川町青柳町内	475.7㎡	8,456㎡	令和4年11月24日～令和5年1月16日
	15	（主）甲府中央右左回線1号線アクセス道路建設工事（包蔵地外）	甲府市大津町内	140㎡	9,140㎡	令和4年12月5日～8日
	16	国道52号上石田道路改良事業（包蔵地外）	甲府市富竹内	27.12㎡	4,600㎡	令和5年1月30日～2月2日
	17	瀬川流域グラウンド整備施設工事（山梨大学遺跡-武田城下町遺跡）	甲府市大下内	180㎡	180㎡	令和4年4月5日
	18	舞鶴城公園植栽事業（花壇撤去）（史跡甲府城跡）	甲府市丸ノ内地	60㎡	60㎡	令和4年5月28日
	19	曾根丘陵公園照明設備改修工事（岩清水遺跡）	甲府市下向山町内	9㎡	9㎡	令和4年5月30日～6月1日
	20	甲府警察署甲府駅前交番改築工事（甲府城下町遺跡）	甲府市丸ノ内地	6㎡	65㎡	令和4年6月10日
	21	甲府噴水広場芝生化工事（史跡甲府城跡）	甲府市丸ノ内地	70㎡	70㎡	令和4年6月22日～27日
	22	笛吹高校農場防犯灯改修工事（風原遺跡）	笛吹市石和町中川内	2㎡	2㎡	令和4年8月22日
	23	笛吹高校農場止水弁パルプ取替工事（風原遺跡）	笛吹市石和町中川内	1㎡	1㎡	令和4年8月29日
	24	釜無川スポーツ公園改修整備工事（ドッグラン整備）（信玄塚）	甲斐市竜王内	1.14㎡	933㎡	令和4年9月14日
	25	産業技術センター高度技術開発棟解体工事（包蔵地外）	甲府市大津町内	700㎡	700㎡	令和4年11月21日、12月2日
26	県立青少年センター運動場芝生整備事業（桜井塚遺跡）	甲府市川田内	175.8㎡	175.8㎡	令和4年12月23日～令和5年1月26日	
27	釜無川スポーツ公園改修整備工事（遊具改修）（信玄塚）	甲斐市竜王内	2.6㎡	2.6㎡	令和5年1月16日、31日	
28	舞鶴城公園数寄屋輪廊漆喰研入木改修工事（史跡甲府城跡）	甲府市丸ノ内地	20㎡	20㎡	令和5年1月23日～2月9日	
29	バスポートセンター改修工事（史跡甲府城跡）	甲府市丸ノ内地	4.2㎡	4.2㎡	令和5年1月23日	
30	御前池川南公園施設改修工事（御前池川堤防群）	南アルプス市六科内	1.7㎡	1.7㎡	令和5年1月24日	
31	桂川流域下水道利用2号幹線2乗化建設工事（牧野遺跡）	上野原市四方津内	4㎡	4㎡	令和5年1月30日	
32	緑が丘スポーツ公園屋外分體施設設置工事（緑ヶ丘二丁目遺跡）	甲府市緑が丘内	30㎡	30㎡	令和5年2月3日	
33	釜無川スポーツ公園屋外トイレ改築工事（信玄塚）	甲斐市竜王内	9㎡	9㎡	令和5年2月7日	
34	曾根丘陵公園屋外分體施設改修工事（上の平遺跡）	甲府市下向山町内	11.9㎡	11.9㎡	令和5年2月8日	
35	市川大門郵便局建設工事（御所田遺跡）	市川三郷町市川大門内	325㎡	325㎡	令和5年3月28日	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第345集

山梨県内分布調査報告書（令和4年4月～令和5年3月）

発行日 2024年3月15日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

TEL. 055-266-3016

E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 株式会社 峽南堂印刷所